

平成24年度

教育に関する事務の管理及び執行状況の  
点検及び評価報告書

石川県教育委員会

## はじめに

近年、経済、社会のグローバル化や科学技術の進展、少子・高齢化の中で教育を取り巻く環境が大きく変化し、学校や家庭においても子どもたちの基本的な生活習慣の乱れ、学ぶ意欲や体力の低下、いじめや問題行動の発生など、様々な課題が生じております。

県教育委員会においては、こうした状況に対応するため、本県教育全般の指針である「石川の教育振興基本計画」に基づき、石川の未来を担う子どもたちはもとより、県民一人一人が生涯にわたる「学び」やライフステージに応じたスポーツ活動により、心豊かでたくましい生きる力を身につけることによって、ふるさとに誇りを持ち、未来を切り拓こうとする気概あふれる積極果敢な人づくりを目指すこととしています。

平成25年度にあっては、教員の急激な世代交代が進む中で、優秀な教員を育成・確保するために「いしかわ師範塾」を開講するほか、確かな学力の育成、いじめを見逃さない学校づくり、道徳教育や体験活動の充実、教育環境の整備・充実、生涯学習の推進などの諸施策に、学校・家庭・地域の更なる連携を図りながら、積極的に取り組むこととしています。

本報告書は、地方教育行政の組織及び運営に関する法律第27条の規定に基づき、平成24年度の教育委員会の取組について点検評価し、金沢大学田邊俊治教授と金沢美術工芸大学桑村佐和子教授からご意見をいただき、まとめたものです。

県教育委員会としては、点検評価の実施を通じて施策の検証と改善を行い、教育施策の効果的な推進に努めてまいりたいと考えています。

平成25年8月

石川県教育委員会

# 目 次

## 事務の点検評価

- 1 文化や風土を生かした、世界に通じる人づくり  
(1) 文化や風土を生かした教育の充実・・・・・・・・・・・・・ 1  
(2) 国際社会に対応できる実践的なコミュニケーション能力の育成・・・・・・・・ 2
- 2 確かな学力をはぐくみ一人一人の個性と創造性を伸ばす教育  
(1) 確かな学力の育成・・・・・・・・・・・・・ 4  
(2) キャリア教育の推進とガイダンスの充実・・・・・・・・・・・・・ 10  
(3) 特別支援教育の充実・・・・・・・・・・・・・ 11
- 3 豊かな人間性をはぐくむとともに、健康や体力の増進に努める、  
たくましい人づくり  
(1) 心の教育・道徳教育の充実・・・・・・・・・・・・・ 14  
(2) いじめ・不登校・暴力行為等への取組の充実・・・・・・・・・・・・・ 16  
(3) 豊かな社会性の育成・人権教育の推進・・・・・・・・・・・・・ 19  
(4) 健康や体力をはぐくむ教育の充実・・・・・・・・・・・・・ 19
- 4 時代の変化に対応した、魅力ある学校づくり  
(1) 教職員の資質・能力の向上・・・・・・・・・・・・・ 22  
(2) 学校マネジメントの推進・・・・・・・・・・・・・ 25  
(3) 教育環境の整備・充実・・・・・・・・・・・・・ 25  
(4) 高等学校の特色ある学校づくり・・・・・・・・・・・・・ 27
- 5 学校、家庭、地域が連携・協力した、社会全体による教育力の向上  
学校、家庭、地域が連携・協力した、社会全体による教育力の向上・・・・ 29
- 6 学びの気運に満ちた生涯学習社会づくり  
学びの気運に満ちた生涯学習社会づくり・・・・・・・・・・・・・ 34
- 7 文化財の保存・活用  
文化財の保存・活用・・・・・・・・・・・・・ 36
- 8 ライフステージに応じたスポーツ活動の充実  
(1) 県民のスポーツライフの充実・・・・・・・・・・・・・ 40  
(2) より高いレベルの競技者育成をめざした取組の充実・・・・・・・・・・・・・ 41  
(3) スポーツ施設の整備・充実・・・・・・・・・・・・・ 43

## 教育委員会会議及び教育委員の主な活動

- 1 教育委員会会議・・・・・・・・・・・・・ 45
- 2 教育委員の主な活動・・・・・・・・・・・・・ 45

## 教育委員会の予算

- 平成24年度当初予算（教育委員会）の概要・・・・・・・・・・・・・ 49

## 事務の点検評価

### 1 文化や風土を生かした、世界に通じる人づくり

本県の豊かな風土や、そこで培われた多彩な文化、歴史など、石川固有の教育資源を活用し、一人一人が様々な体験活動を通して学ぶ喜びや楽しさ、手応えを実感するとともに、郷土石川を愛し、誇りに思う意識をはぐくむ教育を展開する。さらに、石川を自己の基盤としながら、多様な文化を持つ世界の国々や地域の中で、主体的に活躍できる視野の広い行動力のある人づくりをめざす。

#### (1) 文化や風土を生かした教育の充実

取組	<p>◆□海洋体験活動の実施(2,037千円)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・海洋チャレンジプログラムの実施             <ul style="list-style-type: none"> <li>実習船「おおとり丸」を利用した七尾湾洋上体験など 2回 小学校5年生～中学校3年生 27人</li> <li>定期船「ニューへぐら」を利用した離島体験など 2回 小学校5年生～中学校3年生 92人</li> </ul> </li> </ul>
点検・評価	<p>【成果】 海洋体験活動を通して、参加児童生徒に自然体験の楽しさや石川の海の豊かさを感じさせるとともに、社会で求められる自立心や主体性、協調性などの涵養に努めました。</p> <p>【今後の方向性】 活動後のアンケートでは、98.3%の児童生徒が「友達と協力して活動できた」と回答しています。協力することの大切さを学ぶことは、豊かな社会性の育成につながるものと考えており、平成25年度は、定員及び行程を24年度よりも拡充して実施することとしています。</p>

取組	<p>◆いしかわ子ども自然学校の実施(5,799千円)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・推進体制の整備             <ul style="list-style-type: none"> <li>ボランティア養成事業の実施 7講座 124人</li> </ul> </li> <li>・個人参加型自然体験プログラムの実施 <span style="float: right;">総計：144プログラム 4,864人</span> <ul style="list-style-type: none"> <li>オールシーズンチャレンジ(年間10日間程度) 17プログラム 157人</li> <li>サマーチャレンジ(夏休み2泊3日～3泊4日程度) 19プログラム 954人</li> <li>ファミリーチャレンジ(週末親子で参加) 108プログラム 3,753人</li> </ul> </li> <li>・広報活動             <ul style="list-style-type: none"> <li>案内パンフレットの作成 38,000部(県内小学4年生～6年生全員配付)</li> </ul> </li> </ul>
点検・評価	<p>【成果】 いしかわ子ども自然学校の参加者数は、実施機関やプログラムの増加により、平成23年度の4,218人から24年度は4,864人に増加しました。</p> <p>また、10月には県庁19階ロビーで、活動内容のパネル展示を行い、自然体験の魅力についてPRしました。</p> <p>【今後の方向性】 今後とも関係職員の指導技術の向上を目的とした研修の実施や、ボランティアスタッフの養成により推進体制の整備を図り、魅力あるプログラムの提供に努めます。</p>

取組	<p>◆いしかわ版道徳教材の開発（12,785千円）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・石川県の「人」「伝統と文化」「自然」「身近な素材」などの題材を生かしたいしかわ版道徳教材の開発</li> </ul>
点検・評価	<p>【成果】</p> <p>児童生徒が郷土を愛する心や生命を尊重する心、規範意識などの道徳性を身に付け、ふるさといしかわに誇りを持つための適切で良質な教材として、本県独自の「いしかわ版道徳教材」を開発・作成し、県内公立小中学校の全児童生徒に配付しました。</p> <p>【今後の方向性】</p> <p>今後は、本教材の積極的、効果的な活用により、道徳の授業が一層充実したものとなるよう、県内全ての市町において道徳教育推進校を指定し、本教材の効果的な活用の研究を進めるとともに、指導のポイントや指導例をホームページに掲載するなど、学校に対しての支援を行っていきます。</p>

## （２）国際社会に対応できる実践的なコミュニケーション能力の育成

取組	<p>◆高等学校における英語教育の充実（2,800千円）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・授業を英語で行う技術を習得し、学校・地域の核となって助言・指導を行う英語中核教員を養成する研修の実施 24人</li> </ul>
点検・評価	<p>【成果】</p> <p>平成25年度から実施される高等学校の新学習指導要領に対応でき、かつ他の教員を指導できる英語中核教員を養成するため、平成23年度に引き続き5泊6日の「終日英語漬け」合宿を主とした研修を行い、英語で授業を展開するために必要な技量を身に付けさせることができました。また、英語中核教員による公開研究授業及び研修報告会を県内12ヶ所で開催し、県内の英語科教員全員に研究成果の周知を図りました。</p> <p>【今後の方向性】</p> <p>平成23年度から2カ年で養成した計48人の英語中核教員が、今後、校内外の研修講師を務め、新学習指導要領に対応した英語科授業の充実を図っていきます。</p>

取組	<p>◆外国語指導助手の配置（206,506千円）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・高等学校等に、外国語指導助手 44人を配置</li> </ul>
点検・評価	<p>【成果】</p> <p>外国語指導助手を活用した授業により、英語の実践的コミュニケーション能力の伸長を図っています。</p> <p>高校3年時の段階で英検準2級以上を取得している生徒の数は、平成23年度は812名、24年度は865名と増えていますが、高校在籍者に対する割合では、ほぼ同程度でした。</p> <p>【今後の方向性】</p> <p>近年は、GTECやTOEFLといった英検以外の試験を受験する生徒も多くなっていることから、今後は様々な指標によって英語力向上の検証をする必要があると考えています。このため、こうした各種検定の同レベルの合格者の割合などを一つの指標として、英語学習の検証に取り組めます。</p> <p>なお、平成25年度は留学を希望する県内の高校生に対して、留学に要する経費の一部を支援金として給付し、高校生の留学しやすい環境づくりを行うとともに国際的に活躍できる人材の育成をはかることとしています。</p>

施策指標の達成状況

指標名		H22 基準値	H24 実績値 (A)	H27 目標値 (B)	達成率 (A/B × 100)
「いしかわ子ども自然学校」参加者数		2,910 人 (H21)	4,864 人	5,400 人	90.1%
「いしかわ学校版環境 ISO」認定校の割合 ※県立学校は既に全校認定済み	小学校	20%	52%	80%	65%
	中学校	15%	39%	70%	56%

※ H 2 2 基準値は、「石川の教育振興基本計画」の数値目標項目の策定時の値です。

H 2 7 目標値は、「石川の教育振興基本計画」の数値目標項目の目標値です。

## 2 確かな学力をはぐくみ一人一人の個性と創造性を伸ばす教育

新しい知識・情報・技術が政治・経済・文化をはじめ社会のあらゆる領域での活動の基盤として飛躍的に重要性を増す、いわゆる「知識基盤社会」時代にあつて、子どもたちに「生きる力」をはぐくむことがますます重要になっている。

とりわけ、「生きる力」の「知」の側面である学力については、子どもたちに学ぶ楽しさやわかる喜びを感じさせながら、基礎的・基本的な知識・技能を習得させるとともに、これらを活用して課題を解決するために必要な思考力、判断力、表現力等の能力をはぐくみ、主体的に学習に取り組む態度を養うことが大切である。

こうした「確かな学力」を土台として、子どもたち一人一人が意欲的に個性や創造性を伸ばしていくことが求められている。

本県では、平成19年から21年度の3年間悉皆で行われた全国・学力学習状況調査結果について、金沢大学と連携して集計・分析を行い、本県児童生徒及び学校の現状と課題を明らかにし、学力向上に向けた中長期的指針を策定した。この「いしかわ学びの指針12か条」を推進し、子どもたちの「確かな学力」を育成する。

### (1) 確かな学力の育成

<p>取組</p>	<p>◆小学校における少人数学級等の実施</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・小学校1,2年 35人学級編制</li> <li>・小学校3,4年 35人学級と習熟度別少人数授業との選択制</li> </ul> <p>◆小学校複式授業の解消</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・複式学級がある小学校のうち、級外教員の配置がない学校において、必要な学年や教科で単式による授業を行うための非常勤講師の配置 30人</li> </ul>
<p>点検・評価</p>	<p>【成果】</p> <p>生活指導面での支援が必要な小学校低・中学年における少人数学級や、学力向上策としての小学校3年以上の習熟度別少人数授業、複式学級での単式授業など、指導法の工夫・改善のため、教員の加配等を行いました。</p> <p>【課題・今後の方向性】</p> <p>今後とも、きめ細かで質の高い教育の実現に向け、指導体制の充実を図ることとしています。</p>

取組	<p>◆□北欧教育事情の調査（8,641千円）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・視察先 フィンランド国家教育委員会 ヘルシンキ大学行動科学部附属学校 ユヴァスキュラ大学教員養成学部 など</li> <li>・期 間 平成24年5月27日～6月1日（6日間）</li> <li>・参加人員 10人</li> </ul>
点検・評価	<p>【成果】</p> <p>本県の教員研修制度等の参考とするため、OECDによる学力調査でトップレベルを維持するフィンランドの教育事情について調査しました。</p> <p>フィンランドでは、教員養成課程の学生が、教育理論を土台にしながらかつ充実した教育実習に臨み、その実践を大学の授業に生かすカリキュラムが実施されていました。これが教員としての自信と確かな指導力につながっていることから、教育は理論と実践の統合が大変重要であると再認識しました。</p> <p>また、教員になってからも、生涯を通じて学び続け、常に新しい教育理論を獲得するための研修を行うことにより、指導力の向上が図られており、こうした教員の在り方が、学校教育への信頼の源になっていることを実感しました。</p> <p>加えて、同国の思考力・表現力を育む教育、個に応じた指導法は、本県の子どもたちの学力向上を図るうえで大変参考となると考えています。</p> <p>【今後の方向性】</p> <p>この視察結果を、本県の教員研修制度改革等に取り入れ、常に学び続ける教員をしっかりとサポートする体制を整えていきたいと考えています。</p>

取組	<p>◆小・中学生の基礎学力調査の実施（11,081千円）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・調査対象学年、教科等（平成24年4月実施） 小学校4年生 国語、算数 小学校6年生 社会（※国調査 国語、算数、理科） 中学校3年生 社会、英語（※国調査 国語、数学、理科）</li> </ul>
点検・評価	<p>【成果】</p> <p>各学校が基礎学力調査結果の分析・考察を行うための表やグラフを作成する「分析考察のための資料作成ファイル」をホームページに掲載するとともに、県全体の調査結果を取りまとめた「結果の概要」を各学校等へ配付しました。</p> <p>また、調査結果の分析・考察及び指導事例を示した「分析・考察」を各学校等へ配付するとともに、必要に応じ指導・助言を行いました。</p> <p>こうした取組を通じ、各学校で調査結果を踏まえた学力向上の取組が進められていると考えています。</p> <p>【今後の方向性】</p> <p>効果的に学力調査を実施し、子どもたち一人ひとりの学力の到達度や学習状況等の実態を適切に把握することは、学力の向上に向けた指導改善に役立てていく上で大変重要であることから、今後も事業を継続していく必要があると考えています。</p>



取組	<p>◆いしかわ学びの指針 12 か条の推進 (10,451 千円)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・いしかわ学びの指針 12 か条推進校の指定 市町の中核となって学力向上に取り組む学校の指定 効果的な評価・検証方法の紹介など</li> <li>・「学力向上プログラム」の推進 推進チームの派遣 (19 市町) など</li> <li>・読書活動の推進 いしかわ学校読書の日の制定 (毎月 23 日) 読書活動推進モデル校の指定 (小中 19 校)</li> <li>・家庭や地域との連携の推進 保護者向け啓発資料の作成、モデル地域の指定 (5 市町) など</li> </ul>
点検・評価	<p>【成果】</p> <p>活用力の向上など、「いしかわ学びの指針 12 か条」の推進に向け、地域の中核となる推進校(30校)を県内全市町において指定し、指針を踏まえた授業実践等を進めました。その結果、各市町の課題の克服に向けた取組みが積極的に推進されました。</p> <p>学力向上プログラム推進チームの金沢大学教員を推進校に派遣し、専門的な知見に基づく指導・助言を行うとともに、学力向上を図るための指導法等について共通理解を図る学力向上フォーラムを開催しました。また、市町教育委員会からの要請に基づき、児童生徒一人一人の学力の定着状況などを検証するための評価問題の作成及び配布を行いました。</p> <p>県内小中学校 22 校を読書活動推進モデル校として指定し、各学校の取組を相互に情報交換するとともに、実践事例集を作成し、県内小中学校に配付しました。</p> <p>さらに、家庭や地域との連携による学び支援事業でも 5 市町をモデル地域に指定し、フォーラム等を通して、家庭や地域と連携した学習習慣や基本的な生活習慣の定着などの取組について普及を図りました。</p> <p>【今後の方向性】</p> <p>今後は、指針を基に本県児童生徒の課題である活用力の向上に向け、効果的な指導法の開発・実践を中心に、読書活動の一層の促進や家庭・地域との連携を図りながら、実効性のある取組を推進する必要があると考えています。</p>

取組	<p>◆□学校読書ボランティア活動の推進 (609 千円)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ボランティア養成講座の実施 学校読書ボランティア入門講座 県内 3 会場 (加賀、金沢、能登) 各 2 回 272 人</li> <li>・初心者を対象とした手引き書の作成・配布 4,000 部</li> </ul>
点検・評価	<p>【成果】</p> <p>入門講座は、学校読書ボランティアに興味がある方などを対象に、学校図書館の役割や読み聞かせのポイント、絵本の選び方などについて講義を行い、272 人が受講しました。</p> <p>【今後の方向性】</p> <p>今後とも、学校における読書活動が活性化されるよう、引き続き取組を進めていきたいと考えています。</p>

取組	<p>◆□いしかわニュースーパーハイスクールの推進（5,995千円）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 目指す生徒像 <ul style="list-style-type: none"> <li>実践的な英語力を持ち、将来、国際社会でも活躍できる生徒</li> <li>高い「志」を持ち、その実現に向けて挑戦する生徒</li> </ul> </li> <li>・ 概要 <ul style="list-style-type: none"> <li>小松：人文科学コース（普通科1学級、2年次～）の開設準備（学校設定科目、海外研修、関東ヒューマンセミナー、ダントツ講座）</li> <li>金沢泉丘：文理－人文系、理文－自然系（普通科全学級、2年次～）の開設準備（人文系における数学、自然系における国語の強化、英語文献購読などの指導法の研究）</li> <li>七尾：文系フロンティアコース（普通科1学級、1年次～）を開設 学校設定科目「論述錬磨」、「スピークアウト」の開講、語学キャンプ、日本の文化を学ぶ活動、海外研修事前調査の実施</li> <li>金沢二水：人文科学及び自然科学コース（普通科各1学級、2年次～）の開設準備（学校設定科目、総合的な学習(リアルイェンス、グローバルリレーション)、サイエンスア－など</li> <li>金沢桜丘：人文科学及び自然科学コース（普通科各1学級、2年次～）の開設準備（学校設定科目、総合的な学習(アクティブブレイン)、首都圏研修、海外研修など）</li> </ul> </li> </ul>
点検・評価	<p>【成果】</p> <p>1年次よりコースを開設した七尾高校では、学校設定科目「スピークアウト」の授業を開講し、生徒はグループ単位で与えられたテーマについて調べ、英語でスピーチ・プレゼンテーション・討論を行っています。</p> <p>また、2泊3日の語学キャンプでは、ネイティブである講師を招き集中的に英語を使う経験を通して、「聞く・話す」のスキルアップに取り組みました。</p> <p>年度末にスピーチコンテストを開催し、その成果を他校や地域に発表しています。他校の教員からは「スキルの向上だけでなく内容に説得力があり、取組の成果が現れている」などの感想が寄せられました。</p> <p>他の4校については、「人文科学課題研究」や「知の探究」などの新たな学校設定科目の開設などを行うため、先進校の視察、独自教材の開発・研究、シラバスの作成に取り組みました。また、首都圏などの大学・企業等で行う研修やイギリス、シンガポールなどの海外研修の実施に向け、事前調査を行い、具体的な研修プログラムを作成しました。</p> <p>【今後の方向性】</p> <p>今後は、これらの各校の取組が効果的に推進されるよう指導・助言するとともに、各校が互いに交流し切磋琢磨できる環境の整備に努めます。</p>

取組	<p>◆□高等学校連携による教育力の向上（3,000千円）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学校間の連携による取組 教育力向上プロジェクトチーム(PT)による授業研究・教材研究・進路指導研究、PT会議及び合同セミナーの実施</li> <li>・指定校8校（大聖寺、小松明峰、野々市明倫、金沢西、羽咋、鹿西、輪島、飯田）の取組 理数教育の充実、英語力の向上、探究活動の充実など</li> </ul>
点検・評価	<p>【成果】</p> <p>生徒同士が互いに切磋琢磨することで、学習意欲を向上させることをねらいとして、8校の生徒が集まる合同セミナーを年2回開催し、それぞれ約250名の生徒が参加しました。アンケートでは「授業の内容に興味を持つことができたか」という問いに対して、約95%の生徒が肯定的な回答をしているほか、「他校の生徒と交流して視野を広げることができ刺激になった」などの感想があげられました。また、教員からはグループ活動の工夫、ICT機器の活用など今後の授業改善に向けた前向きな感想があげられました。</p> <p>8校の教員が集まるPT会議については、年5回開催しており、大学入試問題の研究や合同セミナーで使用する教材の開発を共同で行ったほか、各校の進路指導体制の現状と課題、その改善策についても討議しました。</p> <p>また、連携校の研究授業に参加するなど8校間の学校訪問の機会がのべ40回と増え、この事業を契機に学校同士の交流が活発になりました。</p> <p>【今後の方向性】</p> <p>今後も、生徒、教員の交流をより一層強め、互いに切磋琢磨できる環境づくりを進めるとともに、学校の現状と課題、その改善に向けた情報交換を図り、各校の学力向上につながるよう努めます。</p>

取組	<p>◆□いしかわ高校科学グランプリの開催（1,493千円）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学校対抗のチーム戦 筆記競技、実技競技（実験系、総合系） 優勝チームを県代表として全国大会である「科学の甲子園」に派遣</li> </ul>
点検・評価	<p>【成果】</p> <p>科学好きの裾野を広げるとともに、トップ層の応用力や実践力を伸ばしながら、科学教育のレベルアップを図ることをねらいとして、県内14の高校から計25チーム、168名が参加して、科学に関する知識やその活用力を学校対抗のチーム戦で競いました。</p> <p>参加した生徒からは、「難しかったが、頑張って挑戦して少しでもできたことがうれしかった」、「交流プログラムでは他校の生徒と話ができて刺激になった」などの声が聞かれ、日頃の学習の成果を存分に発揮するとともに、互いに切磋琢磨する機会になったと考えます。</p> <p>成績については、金沢泉丘高校Aチームが優勝し、石川県代表として「科学の甲子園」に参加しました。</p> <p>【今後の方向性】</p> <p>今後も、科学技術系人材の育成に向けて、事業を推進していきたいと考えています。</p>

<p style="text-align: center;">取 組</p>	<p>◆小・中学校における理科教育の充実（15,288千円）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・小学校教員理科実験力向上研修 小学校の理科実験指導に関し、地域の中核となる教員の養成 約20名 10回</li> <li>・中学校理科教員実験力練成研修 学習指導要領に新たに導入された実験や観察に関する指導手順等の習得 約80名 2回</li> <li>・大学生・退職教員等の理科支援員の配置 小学校5・6年の理科授業 98校</li> <li>・「中学生サイエンス教室・フェア・チャレンジ」の開催 研究者等の外部講師の派遣 中学校24回 サイエンスフェアの開催 県内4会場（33校、約600名参加） サイエンスチャレンジの開催 県内2会場（35校、105名参加）</li> </ul>
<p style="text-align: center;">点 検 ・ 評 価</p>	<p>【成果】</p> <p>小学校においては、理科を指導する教員が生徒に実感をもって理解してもらうことの重要性を認識し、研修内容を授業改善に活かしています。</p> <p>中学校においては、平成24年度からの2年間で、新学習指導要領に沿った観察・実験の内容をより深く理解し、教師と生徒双方の視点からの教材研究や、科学的な思考力・表現力を高めていく指導手順の工夫を図っています。</p> <p>理科支援員配置事業では、各市町の希望に合わせて、退職教員や大学生・大学院生を中心に配置することができました。各学校では、理科の実験準備・実験補助としての活用が見られました。</p> <p>サイエンス教室は、県内全校で実施され、生徒は、最先端の科学技術や、中学生の学習内容を用いた身近な自然現象の解説などを体験することができました。</p> <p>サイエンスフェアでは、約560人の生徒が科学ショーや高校生による科学実験体験コーナーに参加しました。</p> <p>サイエンスチャレンジでは、約100人の生徒がものづくりを中心とした科学の競技会を行うことができました。</p> <p>これらの事業を通じて、児童生徒の科学に対する興味・関心を高めることが出来ました。</p> <p>【今後の方向性】</p> <p>理科教育の充実に向け、子どもたちの自然や科学に対する興味・関心を高め、科学的な見方や考え方を育てるとともに、魅力ある理科実験等を担当できる教員の育成に取り組んでいきます。</p>

## (2) キャリア教育の推進とガイダンスの充実

取組	<p>◆産業界のニーズに対応した人材の育成（4,618千円）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・専門高校（農業・工業・商業分野）における生徒の長期型企業実習、専門家による実践的指導、専門分野の技術力・企画力等を競うコンテストの開催</li> </ul> <p>実施校 9校（大聖寺実業、小松工業、小松商業、翠星、工業、金沢商業、羽咋工業、七尾東雲、能登）</p>
点検・評価	<p>【成果】</p> <p>農業・工業・商業それぞれの分野における長期型企業実習や専門家による技術指導を通じて、参加生徒は学校だけでは学べない貴重な経験をし、専門性を高めています。</p> <p>実習に参加した生徒からは、「ものづくりの基本を言葉と作業を通して学ぶことができた」、「挨拶、身だしなみなどの基本的な事が、いかに大切かということを知った」などの感想が聞かれました。</p> <p>【今後の方向性】</p> <p>今後も、専門高校が地元企業等と連携協力し、石川の産業を支える将来の専門的職業人につながる人材を育成するとともに、新卒者の各専門分野への就職促進や早期離職の防止に向けた意識の醸成が図られるよう、引き続き事業の推進に努めます。</p>
取組	<p>◆企業トップ講演会の開催（217千円）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・世界的規模で活躍する企業トップの講演の開催</li> </ul> <p>講演会（金沢） コマツ 取締役会長 坂根 正弘氏</p>
点検・評価	<p>【成果】</p> <p>トップ企業の経営者である坂根会長は、リーダーの役割やグローバルな視点からみた日本の課題などに触れながら、日本の企業の魅力について講演をされ、参加した生徒からは、「『自分の強みを磨け』という言葉にはっとした」、「石川県という地域社会が世界とつながっている事を知り、勇気づけられた」などの感想が聞かれました。</p> <p>【今後の方向性】</p> <p>グローバル企業の魅力に触れるとともに、生徒の職業観、人生観の形成に刺激を与える事業であり、将来の進路について考えるきっかけづくりとなっていると考えられることから、今後もこうした取組を継続していきたいと考えています。</p>

取組	<p>◆高校卒業予定者の就職対策の強化（4,141千円）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・就職支援員の配置 18人</li> <li>・就職支援連絡会議の開催 年3回</li> <li>・就職支援アドバイザーの配置 2名</li> <li>・高校生の就職基礎能力強化に向けた講座の開催</li> </ul>
点検・評価	<p>【成果】</p> <p>高校卒業予定者の厳しい雇用情勢を受け、県立学校に配置している就職支援員等の連絡会議を開催し、情報の共有に努めるとともに、就職支援に優れたノウハウを有する就職支援アドバイザーを配置校に派遣し、支援員の活動の効率化、活性化を図りました。</p> <p>また、就職希望者を対象に、外部人材を活用した参加型講習会を行うことで、自己表現力やコミュニケーション能力の向上を図りました。</p> <p>こうした取組が一助となって、県内公立高等学校の平成25年3月末の就職内定率が99.2%と、3年連続99%台の高い結果になったと考えています。</p> <p>【今後の方向性】</p> <p>就職内定率は全国と比べても高い数値となっており、今後もこうした取組を継続していきたいと考えています。</p>

### （3）特別支援教育の充実

取組	<p>◆七尾特別支援学校珠洲分校の移転準備（455,245千円）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・H25.1月移転に向けた校舎の耐震補強・大規模改造工事</li> </ul> <p>移転先：旧珠洲実業高等学校</p>
点検・評価	<p>【成果】</p> <p>七尾特別支援学校珠洲分校については、これまで、使用していた校舎の老朽化が進み、狭隘化していたことから、飯田高等学校宝立校舎（旧珠洲実業高等学校）を活用することとし、移転に必要な校舎の耐震補強や大規模改造工事を行いました（H25.1移転）。</p>

取組	<p>◆特別支援学校の医療等外部専門家との連携（1,312千円）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・医療機関等と連携した指導・支援の実施</li> <li>児童生徒の運動や姿勢の改善</li> <li>学習環境の向上</li> <li>教員の指導技術の向上</li> </ul>
点検・評価	<p>【成果】</p> <p>明和特別支援学校においては、小児臨床経験のある専門医、作業療法士等から児童生徒の障害に応じた支援の在り方について助言を得ることにより、児童生徒の動作や姿勢の改善が図られました。また、授業においても、児童生徒の実態に応じた治具等の活用や工夫が多く見られるようになりました。</p> <p>【今後の方向性】</p> <p>今後も、子どもの障害特性に応じた適切な支援や教員の指導技術の一層の向上を図るため、継続した取組が必要と考えています。</p>

取組	<p>◆障害のある生徒のインターンシップの促進（2,796千円）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・就労サポーターの派遣、雇用促進セミナーの開催、外部講師招聘、就職力育成トレーニング実習の実施など</li> </ul>
点検・評価	<p>【成果】</p> <p>特別支援学校高等部生徒への進路指導の充実を図るため、ハローワークや企業と連携した雇用促進セミナーを開催するとともに、就労サポーター派遣や一般企業等から招聘した外部講師による研修の実施、さらに、就職力育成トレーニング実習により、職場実習の改善充実と就労率の向上を図りました。</p> <p>【今後の方向性】</p> <p>この取組により、関係機関との連携が深まり、就労につながる職場実習を実施できましたが、高等部就労希望者の就労率が昨年度に比べて、やや低下していることから、希望者全員の就労を目指し、今後とも継続した取組を推進していきたいと考えています。</p> <p>（高等部就労希望者就労率 H23 97.1%→H24 94.7%）</p>

取組	<p>◆奥能登地域の特別支援教育の充実（1,373千円）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・盲学校、ろう学校のサテライト教室の運営</li> </ul>
点検・評価	<p>【成果】</p> <p>盲学校、ろう学校のサテライト教室を、七尾特別支援学校珠洲分校は平成17年度から、輪島分校においては22年度からそれぞれ設置し、奥能登地域における視覚や聴覚に障害のある幼児・児童の指導及び保護者への支援を行いました（24年度は幼児・児童11名を支援）。</p> <p>この取り組みにより、奥能登地域の視覚や聴覚に障害のある子どもたちが金沢まで出向くことなく、地元で適切な指導支援を受けることができました。また、保護者からの相談にも丁寧に対応しており、保護者の安心感の醸成にもつながっています。</p> <p>【今後の方向性】</p> <p>今後も、継続して児童などの発達段階に応じた指導と保護者支援が必要と考えています。</p>

取組	<p>◆特別支援教育の拠点化（2,474千円）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・特別支援学校の地域におけるセンター化の促進</li> <li>地域の小中学校等への支援</li> <li>医療的ケアを必要とする児童生徒への支援</li> <li>特別支援学校教員の指導力の向上</li> </ul>
点検・評価	<p>【成果】</p> <p>幼稚園・保育所、小中高等学校に対して、特別支援学校の教員42人を専門相談員として派遣し、障害のある児童生徒への指導がより適切に行えるよう教員等への支援を行いました。学校からの評価も高く、継続した相談・支援の要望も多数ありました。</p> <p>また、明和特別支援学校等において、大学教授等のスーパーバイザーと連携した授業研究会を開催し、教員の授業実践力や専門性の向上に取り組みました。各学校の教員は積極的に授業改善に取り組み、指導技術の向上を図ることができました。</p>

【今後の方向性】

今後も、特別支援学校のセンター的機能を強化し、相談員の専門性の維持や若手の専門相談員の育成に努め、小中学校等の要請に的確に応えたいと考えています。

また、今後、明和特別支援学校と同様の事業を他の学校で取り組むことで、特別支援学校教員全体の指導力の向上を図りたいと考えています。

施策指標の達成状況

指標名		H22 基準値	H24 実績値 (A)	H27 目標値 (B)	達成率 (A/B×100)
全国学力・学習状況調査で「家で自分で計画を立てて勉強している」と回答した児童生徒の割合	小学校	63%	63%	75%	84%
	中学校	41%	45%	75%	61%
週1回以上、全校一斉の読書活動に取り組む学校の割合 (文部科学省調査)	小学校	94% (H20)	97%	100%	97%
	中学校	64% (H20)	73%	100%	73%
	高等学校	20% (H20)	12%	70%	17%
学校図書館ボランティアを活用する小・中学校の割合(文部科学省調査)	小学校	83% (H20)	89%	90%以上	98%
	中学校	45% (H20)	50%	60%	83%
県基礎学力調査で「理科が好き」と回答した児童生徒の割合	小学校	78%	81% (国調査)	85%	95%
	中学校	61%	62% (国調査)	75%	82%
児童生徒のICT活用を指導することができる教員の割合(文部科学省調査)		59% (H21)	小 67.1% 中 56.6%	100%	小 67.1% 中 56.6%
授業中にICTを活用して指導することができる教員の割合(文部科学省調査)		56% (H21)	小 67.0% 中 58.6%	100%	小 67.0% 中 58.6%
県立全日制高等学校在学中にインターシップに参加した生徒の割合		42%	38%	100%	38%
特別支援学校教員の特別支援学校教諭免許状保有率		73%	67%	100%	67%

※H22基準値は、「石川の教育振興基本計画」の数値目標項目の策定時の値です。

H27目標値は、「石川の教育振興基本計画」の数値目標項目の目標値です。



### 3 豊かな人間性をはぐくむとともに、健康や体力の増進に努める、たくましい人づくり

基本的な生活習慣や社会的規範はもとより、自らの存在価値を見出す自尊感情や責任感、また、美しいものや自然に感動する心、他人と協調し、他人を思いやる心などの豊かな人間性をはぐくむとともに、健康や体力の保持増進に努め、困難に挑戦し自らの力で乗り越えようとするたくましい人づくりをめざす。

#### (1) 心の教育・道徳教育の充実

取組	<p>◆いしかわ版道徳教材の開発（12,785千円）〔再掲〕</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・石川県の「人」「伝統と文化」「自然」「身近な素材」などの題材を生かしたいしかわ版道徳教材の開発</li> </ul>
点検・評価	<p>【成果】</p> <p>児童生徒が郷土を愛する心や生命を尊重する心、規範意識などの道徳性を身に付け、ふるさといしかわに誇りを持つための適切で良質な教材として、本県独自の「いしかわ版道徳教材」を開発・作成し、県内公立小中学校の全児童生徒に配付しました。</p> <p>【今後の方向性】</p> <p>今後は、本教材の積極的、効果的な活用により、道徳の授業が一層充実したものとなるよう、県内全ての市町において道徳教育推進校を指定し、本教材の効果的な活用の研究を進めるとともに、指導のポイントや指導例をホームページに掲載するなど、学校に対しての支援を行っていきます。</p>
取組	<p>◆道徳教育の推進（3,791千円）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・高等学校 道徳教育研究協議会の開催</li> <li>・小中学校 地域や保護者と連携した道徳教育の展開</li> <li>・幼稚園 幼稚園教育研究協議会や公開保育研究会の開催</li> </ul>
点検・評価	<p>【成果】</p> <p>道徳教育の推進については、全公立小中学校において、道徳の授業の公開、地域教材やゲストティーチャーを活用した授業、保護者が参加する講座など家庭や地域と連携した取組を実施しました。</p> <p>また、幼稚園から高等学校まで、道徳教育を推進するための研究協議会を設け、指導の充実に努めました。</p> <p>【今後の方向性】</p> <p>今後も、こうした取り組みに加え、平成24年度までに作成した本県独自の道徳教材の活用などを通して、道徳教育の一層の充実を進めます。</p>

取組	<p>◆心の教育の推進（7,232千円）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・心の教育推進大会の開催（参加者数 320人）</li> <li>・グッドマナーキャンペーンの展開（参加協力者数 89,176人）</li> <li>・「親子の手紙」の募集（応募数 23,774点）</li> <li>・子どもの生活リズム向上の推進 <ul style="list-style-type: none"> <li>達成者数 「げんきいっぱいカード」（幼児用） 7,344人</li> <li>「げんきあっぷカード」（小学生） 16,829人</li> </ul> </li> <li>・高校生ボランティアリーダーの養成 48人 など</li> </ul>
点検・評価	<p>【成果】</p> <p>豊かな人間性を育む心の教育の充実に向けて、様々な事業を実施しました。グッドマナーキャンペーンの参加協力者数、「親子の手紙」の応募数及び子どもの生活リズム向上の推進における幼児、小学生の達成者数が過去最多となりました。</p> <p>【今後の方向性】</p> <p>グッドマナーキャンペーンの参加協力者数などが過去最多となるなど、心の教育への県民の関心が高まっており、今後とも継続した取り組みを進めていく必要があると考えています。</p>

取組	<p>◆□学校読書ボランティア活動の推進（609千円）〔再掲〕</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ボランティア養成講座の実施 <ul style="list-style-type: none"> <li>学校読書ボランティア入門講座</li> <li>県内3会場（加賀、金沢、能登）各2回 272名</li> </ul> </li> <li>・初心者を対象とした手引き書の作成・配布 4,000部</li> </ul>
点検・評価	<p>【成果】</p> <p>入門講座は、学校読書ボランティアに興味がある方などを対象に、学校図書館の役割や読み聞かせのポイント、絵本の選び方などについて講義を行い、272人が受講しました。</p> <p>【今後の方向性】</p> <p>今後とも、学校における読書活動が活性化されるよう、引き続き取組を進めていきたいと考えています。</p>

(2) いじめ・不登校・暴力行為等への取組の充実

取組	<p>◆□いじめ対応アドバイザーの派遣(3,176千円)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>外部専門家62人を「いじめ対応アドバイザー」に委嘱し、要請のある公立学校に派遣</li> </ul>
点検・評価	<p>【成果】</p> <p>全公立学校において、「いじめ問題対策チーム」を常設し、平時からいじめの問題に備えるとともに、いじめ問題が発生した場合には「個別案件対応班」を編成するなど初期段階から組織的に積極対応を図ることとしました。</p> <p>また、「いじめ対応アドバイザー」として学識経験者、弁護士、医師、臨床心理士、警察官OB、校長OBなどの専門家を要請のある学校に派遣し、必要な助言・指導を行いました。</p> <p>【今後の方向性】</p> <p>今後とも、「いじめはどの子どもにも、どの学校においても起こり得るもの」との認識のもと、各学校に対し、子どもが発する小さなサインを見逃さないよう、日頃から丁寧な児童生徒理解に努める必要があります。</p> <p>また、発見した場合には、教員個人が抱え込むことがないように初期段階から組織的に積極対応に努めるよう指導するとともに、市町教育委員会とも連携し、「いじめを見逃さない・風通しのよい学校づくり」を図り、子どもが安心して学べる環境を整えます。</p>
取組	<p>◆カウンセリング機能等の強化拡充(76,226千円)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>スクールカウンセラー(臨床心理士等)の配置 小学校29校、中学校93校、高等学校6校</li> <li>24時間いじめ相談テレホンの設置(24時間体制の電話相談)</li> </ul> <p>◆中学校1年の不登校問題等への対応に向けた少人数学級の実施</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>中学校1年において、学級担任が一人一人の生徒にきめ細かな指導を行えるよう35人学級編制を選択できる制度を実施</li> </ul>
点検・評価	<p>【成果】</p> <p>スクールカウンセラーを中学校全校配置とするため、中学校で19校増やし、小・中・高等学校合わせて128校に配置し、学校の教育相談体制の充実に努めました。</p> <p>また、24時間いじめ相談テレホンを設置し、常時相談員2人体制で相談を受け付けるとともに、各学校ではいじめアンケート調査の複数回実施など早期発見・早期対応に努めました。</p> <p>さらに、いわゆる「中1ギャップ」対策として、中学校1年で1学級の生徒数が35人を超える学校に教員の加配を行い、少人数学級を実施しました。</p> <p>【今後の方向性】</p> <p>いじめや不登校への対応は多様であり、学校現場では、専門的な知識や経験を持ったスクールカウンセラー等の配置が求められており、その充実に努める必要があります。</p> <p>また、最近の子どもたちの人間関係は希薄になり、いじめの悩みを、一人で持ち続ける場合も多く、24時間いじめ相談テレホンなど、子どもたちがいつでも相談できる体制を維持する必要があります。</p> <p>加えて、中学校1年における35人学級編制を選択できる制度を継続して実施することとしています。</p>

取組	<p>◆不登校児童生徒の学校復帰支援（9,706千円）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教育支援センター等の充実 県立教育支援センターにおける対応、市町立教育支援センターへの支援等 ひきこもりがちな児童生徒に対応する訪問指導員の派遣</li> <li>・生徒指導・発達障害サポートチームの県立学校への派遣 臨床心理士、精神科医等の専門チームの派遣 校内の支援会議や研修会への助言、個別の支援プログラム作成への援助 など</li> <li>・発達障害アドバイザーの巡回 高等学校を発達障害の専門家が巡回（全県立高校43校） 早期発見及び早期対応に向けたアドバイス</li> </ul>
点検・評価	<p>【成果】</p> <p>教育支援センター（県立やすらぎ教室及び市町立）において、不登校に悩む児童生徒及び保護者の相談を受け、不登校の未然防止に努めるとともに通室している児童生徒の学校復帰を目指した適応指導と相談体制の充実に取り組みました。</p> <p>また、高等学校において不登校等の生徒指導上の課題に対応するため、医師や臨床心理士を学校の要請に応じて派遣し、教員・生徒・保護者への具体的な支援に努めました。</p> <p>【今後の方向性】</p> <p>今後ともこうした取り組みを継続する必要があると考えています。</p>

取組	<p>◆生徒指導体制の充実（15,178千円）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒指導サポーターの派遣 17人</li> </ul>
点検・評価	<p>【成果】</p> <p>警察官OBを中心とした生徒指導サポーターを、中学校を中心に派遣し、学校の生徒指導体制の強化を図っています。</p> <p>また、高校生及びその保護者を対象にした「高等学校非行防止教室」、小中学生の保護者を対象とした「非行・被害防止講座」などを通して、児童生徒の規範意識の育成や非行防止を図り、生徒指導体制の充実に取り組みました。</p> <p>【今後の方向性】</p> <p>今後とも、学校の生徒指導体制の強化を進め、児童生徒の規範意識の育成や相手を思いやる心の育成など共感的な人間関係づくりを推進する必要があります。</p>

取組	<p>◆家庭・地域におけるいじめ・不登校等の未然防止対策の推進（1,229千円）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・PTA・公民館等によるいじめ・不登校等の未然防止講座、セミナーの開催など</li> </ul>
点検・評価	<p>【成果】</p> <p>PTAや公民館等13団体にモデル事業を委託し、保護者や地域住民を対象とした、いじめ・不登校等の状況や原因への理解を深める参加体験型の講座やセミナーを延べ34回開催し、3,586人が受講しました。</p> <p>【今後の方向性】</p> <p>今後とも保護者や地域住民に対する啓発に努めるとともに、平成25年度は新たに地域の大人と子どもとの関係づくりを進める通学合宿の実施を支援し、引き続き地域全体で子どもたちを見守る環境づくりを進め、いじめ・不登校の未然防止を図りたいと考えています。</p>

取組	<p>◆携帯電話等によるネットトラブルの未然防止対策の推進（1,791千円）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・小1～高3の全保護者向け啓発リーフレット作成・配付（7月）150,000部</li> <li>・PTA等が開催する保護者対象の啓発講座への講師派遣</li> <li>・携帯電話利用状況の実態把握のため、公立小中高生を対象にアンケート調査を実施</li> <li>・ネットトラブル対策チームの設置 <ul style="list-style-type: none"> <li>ネットパトロールの実施</li> <li>いじめ、誹謗中傷等の書き込みを学校へ情報提供</li> <li>学校からの相談受付 など</li> </ul> </li> </ul>
点検・評価	<p>【成果】</p> <p>携帯電話の有害情報対策として、全小中高等学校・特別支援学校の保護者に「いしかわ子ども総合条例」改正の趣旨や、携帯電話に潜む危険性と安全対策等を記したリーフレットを配付しました。併せて、保護者対象の啓発講座へ講師を派遣し、県内14校において900人が受講しました。</p> <p>また、平成24年12月に実施した「携帯電話等に関するアンケート調査」において</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・小・中学生の所持率は全国に比べ低い傾向がある</li> <li>・「いしかわ子ども総合条例」が改正されたこともあり、中学2年までに所持する者は平成22年以前に比べ少なくなり、フィルタリング率は平成22年に比べ高くなった</li> </ul> <p>などの結果が得られたことで、これまでの取組により一定の成果があったと考えています。</p> <p>【今後の方向性】</p> <p>上記の調査において、</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・高校1年生においてスマートフォンが急速に普及しており、携帯電話利用者に比べ、フィルタリング設定率が低く、使用時間が長い</li> <li>・親子のルールづくりについて親子間の意識に差異がある</li> </ul> <p>などの課題も見られました。</p> <p>このため、今後は、スマートフォンが急速に普及している現況を踏まえ、ネット利用に関わる危険性などについても周知することや、より一層PTAと連携して、いしかわ子ども総合条例の趣旨についての周知・啓発活動や情報モラル教育の推進が必要であると考えています。</p>

### (3) 豊かな社会性の育成・人権教育の推進

取組	<p>◆□海洋体験活動の実施（2,037千円）〔再掲〕</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・海洋チャレンジプログラムの実施</li> </ul> <p>実習船「おおとり丸」を利用した七尾湾洋上体験など 2回 小学校5年生～中学校3年生 27人</p> <p>定期船「ニューへぐら」を利用した離島体験など 2回 小学校5年生～中学校3年生 92人</p>
点検・評価	<p>【成果】</p> <p>海洋体験活動を通して、参加児童生徒に自然体験の楽しさや石川の海の豊かさを感じさせるとともに、社会で求められる自立心や主体性、協調性などの涵養に努めました。</p> <p>【今後の方向性】</p> <p>活動後のアンケートでは、98.3%の児童生徒が「友達と協力して活動できた」と回答しています。協力することの大切さを学ぶことは、豊かな社会性の育成につながるものと考えており、平成25年度は、定員及び行程を24年度よりも拡充して実施することとしています。</p>

取組	<p>◆人権教育の推進（7,627千円）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・社会教育における人権教育の推進</li> </ul> <p>指導者の研修、啓発資料等の作成・配付</p>
点検・評価	<p>【成果】</p> <p>社会教育における人権教育を推進するため、公民館連合会や婦人団体協議会などの社会教育関係団体や市町人権教育担当者を対象に10回の研修を実施し、延べ1,936人の参加がありました。また、人権教育図書や人権啓発資料「人・人・人への思いやり」を市町等に配布しました。</p> <p>【今後の方向性】</p> <p>今後も人権教育に対する理解と認識が深まるよう啓発に努めていきます。</p>

### (4) 健康や体力をはぐくむ教育の充実

取組	<p>◆体力向上をめざした食育の推進（739千円）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・児童生徒の食習慣・生活習慣の改善に向けた実践的取組</li> </ul> <p>モデル校：小学校2校、中学校1校</p>
点検・評価	<p>【成果】</p> <p>児童生徒に、望ましい食習慣や生活習慣を身に付けさせることで、運動意欲の向上と体力向上を図るため、栄養教諭配置校の小学校2校、中学校1校を研究校に指定し、食生活の実態や体力運動能力の調査をするとともに、学級担任・栄養教諭・養護教諭が連携した児童への個別指導の実施や、児童・生徒・保護者を対象にした朝食料理教室の実施など、意識啓発に留まらない実践的な食育に取り組みました。</p> <p>また、研究校において、公開研究発表会を開催し、食習慣や生活習慣の改善が体力向上に結びつくという分析・検証の成果を県内の全小中学校に普及させました。</p> <p>【今後の方向性】</p> <p>今後は、県内の各小中学校で体力向上に結びつく食育の取組が実践されるように、教員の研修会等を通して、食育の推進を促していきます。</p>

取組	<p>◆いしかわっ子体力アップ推進プランの実践（494 千円）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・体力・運動能力調査結果を踏まえた「1校1プラン」 対象 全公立小中高等学校</li> <li>・「スポチャレいしかわ」優秀クラス表彰（小学校） 4 種目（40m、8 の字、シャトルボール、長なわ） 種目別・学年別・部門別に優秀クラスを 6 位まで表彰 参加校：小学校 209 校、1,476 クラス、表彰：85 校、189 クラス</li> </ul>
点検・評価	<p>【成果】</p> <p>児童生徒の体力アップを図るため、平成 24 年度も引き続き、公立小中高等学校全てにおいて、体力・運動能力調査の結果を踏まえた体力アップ 1 校 1 プランを実施しました。その結果、平成 24 年度の体力・運動能力調査では、調査を悉皆調査で始めた 18 年度以降、体力合計点が年々上昇するなど、本県児童生徒の体力は回復の傾向にあります。</p> <p>【今後の方向性】</p> <p>子どもの体力は、昭和 60 年頃をピークとして低下傾向にあることから、昭和 60 年頃の水準に回復させることを目指し、今後とも、継続した取組を推進していきたいと考えています。</p>
取組	<p>◆□教職員や児童生徒の防災意識の向上（3,514 千円）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・専門家の派遣による危機管理マニュアルの点検など 学校防災アドバイザーの派遣 19 市町各 1 校、県立 1 校 緊急地震速報受信システム設置校 4 校 学校安全ボランティア支援員派遣 県立 1 校</li> </ul>
点検・評価	<p>【成果】</p> <p>実践校 20 校において、地域と連携した避難訓練を積極的に行うことにより、教職員や児童生徒等の防災に対する意識の向上を図るとともに、有識者の指導・助言を得て、学校の危機管理マニュアルの見直し・修正を行いました。また、実践校のうち 4 校をモデル校として、緊急地震速報受信システムを設置し、システムを活用した避難訓練を行い、児童生徒が自ら主体的に適切な避難行動ができる態度を養いました。</p> <p>【今後の方向性】</p> <p>東日本大震災以降、学校での防災教育に対する意識は高まっており、今後も、継続した取組を行っていく必要があると考えています。</p>
取組	<p>◆□学校給食における安心の確保（697 千円）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学校給食における放射性物質の有無及び量を把握するための検査</li> </ul>
点検・評価	<p>【成果】</p> <p>学校給食のより一層の安全・安心の確保の観点から、県内全 19 市町内の検査対象校（調理場）37 カ所の学校給食 1 週間分における放射性物質の有無や量について検査を実施した結果、検査下限値 10 ベクレル/kg 以上の放射性物質は検出されませんでした。検査結果については、随時、県教育委員会のホームページで公表しました。</p>

取組	◆栄養教諭の計画的配置 ・全市町に栄養教諭を配置 55人
点検・評価	【成果・今後の方向性】 子どもたちの食育を推進するうえで、食に関する指導の全体計画の策定、教職員間や家庭、地域との連携・調整等において中核となる栄養教諭の役割は重要であり、引き続き計画的な配置が必要であると考えています。

### 施策指標の達成状況

指標名		H22 基準値	H24 実績値 (A)	H27 目標値 (B)	達成率 (A/B×100)
青少年教育施設を活用する小・中学校の割合		77% (平成21年度)	81%	100%	81%
週1回以上、全校一斉の読書活動に取り組む学校の割合 (文科省調査)[再掲]	小学校	94% (H20)	97%	100%	97%
	中学校	64% (H20)	73%	100%	73%
	高等学校	20% (H20)	12%	70%	17%
朝食を毎日食べる小・中学校児童生徒の割合		90%	90.7%	100%	90.7%
運動部・地域のスポーツクラブに加入している生徒の割合	中学校	76%	76.3%	80%	95.3%
	高等学校	53%	53.4%	60%	89%
体カテストの5段階評価で上位2ランク(A・B)の割合		50%	51.1%	55%	92.9%

※H22基準値は、「石川の教育振興基本計画」の数値目標項目の策定時の値です。

H27目標値は、「石川の教育振興基本計画」の数値目標項目の目標値です。



## 4 時代の変化に対応した、魅力ある学校づくり

少子高齢化、情報化、国際化等の進展や、成熟社会、分権型社会への移行など、時代や社会の変化が急速に進む中、教育に対するニーズも多様化しており、それらに対応した様々な学習活動が可能な魅力ある学校づくりや教育システムの改善をめざす。

### (1) 教職員の資質・能力の向上

取組	<p>◆□教員研修制度改革会議の設置（896千円）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「教員研修制度改革会議」による新たな研修制度の在り方に関する検討</li> </ul>
点検・評価	<p>【成果】</p> <p>教員の世代交代を見据え、石川の教育力向上を目的とした新たな教員研修制度を検討するため、現職教員の研修充実、教員を目指す人材の育成、ベテランの指導技術の継承に関して、計3回の会議を開催しました。この会議では、平成26年度からの新しい教員研修体制の確立に向けて様々な意見をいただきました。</p> <p>【今後の方向性】</p> <p>平成25年度は、さらに議論を深めていただくとともに、教員の専門性向上を図る研修に取り組むため、「いしかわ師範塾」を開講することとし、まず、本県の教員を目指す学生や講師を対象に模擬授業など実践的な研修を実施することとしています。</p>

取組	<p>◆□教員の養成段階からの育成と人材の確保（6,353千円）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教員志望大学生実力アップセミナーの開催 <ul style="list-style-type: none"> <li>対象 大学3年生（70名×2組＝140名）</li> <li>内容 講義・演習（2日間）</li> <li>学校現場実習（1日間）</li> </ul> </li> <li>・大学生・高校生向けの教員募集パンフレットの作成・配布 <ul style="list-style-type: none"> <li>大学生・既卒者向け 7,000部</li> <li>職務内容、志願から採用までの手続き、給与や勤務条件等</li> <li>高校生向け 6,000部</li> <li>教師という職業の魅力、先輩からのメッセージ等</li> </ul> </li> </ul>
点検・評価	<p>【成果】</p> <p>本県の教員を目指す学生を対象に、講義や演習、授業参観など3日間の講座を2回実施し、県内外の大学生123名が参加しました。講義だけでなく、演習や協議を通じて、教員としての心構えや授業づくりの基礎を身につけさせるとともに、コミュニケーション力や指導力の向上を図りました。</p> <p>【今後の方向性】</p> <p>受講者が、教員として採用後、セミナーで得た成果を十分に発揮し、即戦力となることが期待されます。セミナーの内容を検証し、改善点などを平成25年度開講の「いしかわ師範塾」に反映することとしています。</p>

取組	<p>◆□北欧教育事情の調査（8,641千円）〔再掲〕</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・視察先 フィンランド国家教育委員会 ヘルシンキ大学行動科学部附属学校 ユヴァスキュラ大学教員養成学部 など</li> <li>・期 間 平成24年5月27日～6月1日（6日間）</li> <li>・参加人員 10人</li> </ul>
点検・評価	<p>【成果】</p> <p>本県の教員研修制度等の参考とするため、OECDによる学力調査でトップレベルを維持するフィンランドの教育事情について調査しました。</p> <p>フィンランドでは、教員養成課程の学生が、教育理論を土台にしながら充実した教育実習に臨み、その実践を大学の授業に生かすカリキュラムが実施されていました。これが教員としての自信と確かな指導力につながっていることから、教育は理論と実践の統合が大変重要であると再認識しました。</p> <p>また、教員になってからも、生涯を通じて学び続け、常に新しい教育理論を獲得するための研修を行うことにより、指導力の向上が図られており、こうした教員の在り方が、学校教育への信頼の源になっていることを実感しました。</p> <p>加えて、同国の思考力・表現力を育む教育や個に応じた指導法は、本県の子ども達の学力向上を図るうえで大変参考となると考えています。</p> <p>【課題・今後の方向性】</p> <p>この視察結果を、本県の教員研修制度改革等に取り入れ、常に学び続ける教員をしっかりとサポートする体制を整えていきたいと考えています。</p>

取組	<p>◆教職員研修の充実（93,032千円）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・初任者研修 新任教員の実践的指導力、使命感を養う研修</li> <li>・初任者フォローアップ研修 教職2・3年目における学習指導・学級経営研修</li> <li>・ライフステージ研修 教職6年目、15年目の教職員に対する経年研修</li> <li>・10年経験者研修 教職11年目教職員に対する能力、適性に応じた研修</li> <li>・管理職研修 学校経営に係る指導力等の向上を図る研修</li> <li>・主任等研修 ミドルリーダー研修（主幹教諭・指導教諭・主任） 主幹教諭・指導教諭研修 教務主任等研修 生徒指導主事研修</li> <li>・今日的課題研修 今日的課題に関する研修講座</li> <li>・校内研修サポート 校内研修を充実・活性化するための出前研修講座（798件）</li> <li>・大学院等長期派遣研修 24人</li> <li>・産業教育担当教育研修 28人</li> <li>・海外派遣研修 12人（ベトナム）</li> <li>・指導改善研修 学習指導などを適切に行えない教員に対する研修</li> <li>・企業トップに学ぶ研修 企業経営者による講演会の実施（2回）</li> </ul>
----	---

点 検 ・ 評 価	<p><b>【成果】</b></p> <p>初任者研修では、退職校長を 23 人再任用して指導教員に充てるなど、経験を通じて培った指導技術や教育者としての心構えなどが伝えられるよう工夫しました。さらに、採用 2 年目、3 年目の教員を対象とした「初任者フォローアップ研修」により、教員としての基礎固めを行い、若手教員の実践的な指導力の育成に努めています。</p> <p>また、生徒指導主事研修を新設し、生徒指導の計画的、組織的、積極的な運営をするために、生徒指導主事の資質の向上と新しい視点からの生徒指導の具体的な実践力の育成を図っています。</p> <p><b>【今後の方向性】</b></p> <p>平成 21 年度から開始した校内研修サポート事業は、年々実施件数が増加し、平成 24 年度は 798 件実施しました。個別の教員の研修について相談・協力に応じるコンサルティングも 100 件を超えており、教員のニーズに対して、さらにきめ細かく対応できるよう努めていきます。</p>
-----------------------	--

取 組	<p><b>◆大学連携による教員の養成・資質向上（1,400 千円）</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・大学における教員の養成カリキュラム及び現職教員の研修プログラムに関する研究を行う教授を配置（金沢大学教授を併任）</li> <li>・大学教授の指導のもとで教材開発や学習指導法の研究・開発を行うゼミ形式の現職研修講座を開設 6 講座</li> </ul>
--------	--

点 検 ・ 評 価	<p><b>【成果】</b></p> <p>金沢大学教授によるゼミナール形式の研修講座を開講し、34 名の教員が、教材開発や学習指導法に関する研究を行いました。</p> <p><b>【今後の方向性】</b></p> <p>平成 24 年度は県立学校を主としたゼミを実施しており、今後も、教員の実践的な指導力育成のため、大学との積極的な連携を図っていきます。</p>
-----------------------	--

取 組	<p><b>◆教育センターのカリキュラムセンター化の推進</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教員の自主的な研修を支援し、授業力の向上を図るため、教育センターのカリキュラムセンター機能を充実</li> </ul>
--------	--

点 検 ・ 評 価	<p><b>【成果】</b></p> <p>教育センターの「カリキュラム開発支援室」を核とし、利用者延べ 660 名の教員への学習指導法の相談、教材開発の支援等を行い、教員の自主的な研修を支援することができました。また、専門の指導主事が、研修の相談・協力に応じるコンサルティングにも 111 名が来室しました。</p> <p><b>【今後の方向性】</b></p> <p>今後、さらに図書や資料等を充実し、より利用しやすい環境を整え、個々の教員を支援することにより、教員の授業力及び資質の向上を図っていきます。</p>
-----------------------	---

## (2) 学校マネジメントの推進

取組	<p>◆学校における組織運営・指導体制の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・副校長、主幹教諭、指導教諭を大規模校等に配置 小学校（25校）・中学校（26校）・高校（12校）</li> <li>副校長 12校</li> <li>主幹教諭 56校</li> <li>指導教諭 36校</li> </ul>
点検・評価	<p>【成果】</p> <p>学校の組織運営体制や指導体制の充実を図るため、平成20年度から副校長、主幹教諭、指導教諭を配置しており、会議の効率化や保護者等への対応の改善が図られた等の成果が見られています。</p> <p>【今後の方向性】</p> <p>主幹教諭は、高等学校においては副校長と、小中学校においては指導教諭と組み合わせて配置を進めてきましたが、平成24年度は、配置基準を緩和し、主幹教諭を単独で配置することにより、主幹教諭の拡充を図りました。今後とも、組織的・機動的な学校運営が行えるよう支援していきたいと考えています。</p>

## (3) 教育環境の整備・充実

取組	<p>◆高等学校等の施設設備の充実（2,359,165千円）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・金沢商業高等学校 校舎等改築（H24：教室棟改築（2期工事）、構内環境整備）</li> <li>・金沢桜丘高等学校 校舎等一部改築の実施設計</li> <li>・産業教育設備の充実</li> <li>・校舎等維持修繕</li> </ul> <p>◆県立学校の耐震化の推進（849,165千円）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・耐震補強・大規模改造工事 宝達高等学校、志賀高等学校、七尾特別支援学校珠洲分校（再掲）</li> </ul>
点検・評価	<p>【成果】</p> <p>平成24年度末の県立学校の耐震化率は、平成23年度末の87.0%から89.6%に上昇しました。</p> <p>【今後の方向性】</p> <p>今後とも、生徒が安心して学ぶことができるよう、学校施設の耐震化を計画的に進めていきます。</p> <p>また、老朽化した校舎の改築や多様化する学習内容に対応した施設整備を推進し、引き続き教育環境の整備充実を図る必要があります。</p>

取組	<p>◆情報設備の充実（58,231千円）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・情報処理室パソコンの更新 県立学校4校</li> <li>・校務用パソコンの更新 など</li> </ul>																																																																																															
点検・評価	<p>【成果】</p> <p>生徒が、コンピュータやインターネットを活用し、情報社会に主体的に対応できる能力を育成するため、学校におけるコンピュータの整備を推進しました。</p> <p>【今後の方向性】</p> <p>今後とも各種授業にコンピュータを十分活用できるよう、情報設備の充実を図る必要があると考えています。</p>																																																																																															
取組	<p>◆就学援助の充実〔育英資金特別会計〕（323,799千円）</p> <table border="1" data-bbox="292 622 1177 1473"> <thead> <tr> <th colspan="4">対 象</th> <th>貸与月額</th> <th>人数</th> </tr> <tr> <td colspan="4"></td> <td>円</td> <td>人</td> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>大学</td> <td>1～6年</td> <td></td> <td></td> <td>44,000</td> <td>203</td> </tr> <tr> <td rowspan="4">高専</td> <td rowspan="4">1～3年</td> <td rowspan="2">国公立</td> <td>自宅</td> <td>18,000</td> <td rowspan="4">55</td> </tr> <tr> <td>自宅外</td> <td>23,000</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">私立</td> <td>自宅</td> <td>30,000</td> </tr> <tr> <td>自宅外</td> <td>35,000</td> </tr> <tr> <td colspan="2">4・5年</td> <td></td> <td>44,000</td> <td></td> </tr> <tr> <td rowspan="4">高校〔一般枠〕</td> <td rowspan="4">1～4年</td> <td rowspan="2">国公立</td> <td>自宅</td> <td>18,000</td> <td rowspan="4">572</td> </tr> <tr> <td>自宅外</td> <td>23,000</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">私立</td> <td>自宅</td> <td>30,000</td> </tr> <tr> <td>自宅外</td> <td>35,000</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">高校〔再編枠〕</td> <td rowspan="2">1～3年</td> <td></td> <td>自宅</td> <td>18,000</td> <td rowspan="2">18</td> </tr> <tr> <td></td> <td>自宅外</td> <td>23,000</td> </tr> <tr> <td colspan="6">※希望者には12,000円を加算</td> </tr> <tr> <td rowspan="4">高校〔緊急枠〕</td> <td rowspan="4">1～4年</td> <td rowspan="2">国公立</td> <td>自宅</td> <td>18,000</td> <td rowspan="4">0</td> </tr> <tr> <td>自宅外</td> <td>23,000</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">私立</td> <td>自宅</td> <td>30,000</td> </tr> <tr> <td>自宅外</td> <td>35,000</td> </tr> <tr> <td rowspan="4">専修〔高等課程〕</td> <td rowspan="4">1～3年</td> <td rowspan="2">国公立</td> <td>自宅</td> <td>18,000</td> <td rowspan="4">2</td> </tr> <tr> <td>自宅外</td> <td>23,000</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">私立</td> <td>自宅</td> <td>30,000</td> </tr> <tr> <td>自宅外</td> <td>35,000</td> </tr> <tr> <td>専修〔専門課程〕</td> <td>1～3年</td> <td></td> <td>44,000</td> <td>32</td> </tr> </tbody> </table>	対 象				貸与月額	人数					円	人	大学	1～6年			44,000	203	高専	1～3年	国公立	自宅	18,000	55	自宅外	23,000	私立	自宅	30,000	自宅外	35,000	4・5年			44,000		高校〔一般枠〕	1～4年	国公立	自宅	18,000	572	自宅外	23,000	私立	自宅	30,000	自宅外	35,000	高校〔再編枠〕	1～3年		自宅	18,000	18		自宅外	23,000	※希望者には12,000円を加算						高校〔緊急枠〕	1～4年	国公立	自宅	18,000	0	自宅外	23,000	私立	自宅	30,000	自宅外	35,000	専修〔高等課程〕	1～3年	国公立	自宅	18,000	2	自宅外	23,000	私立	自宅	30,000	自宅外	35,000	専修〔専門課程〕	1～3年		44,000	32
対 象				貸与月額	人数																																																																																											
				円	人																																																																																											
大学	1～6年			44,000	203																																																																																											
高専	1～3年	国公立	自宅	18,000	55																																																																																											
			自宅外	23,000																																																																																												
		私立	自宅	30,000																																																																																												
			自宅外	35,000																																																																																												
4・5年			44,000																																																																																													
高校〔一般枠〕	1～4年	国公立	自宅	18,000	572																																																																																											
			自宅外	23,000																																																																																												
		私立	自宅	30,000																																																																																												
			自宅外	35,000																																																																																												
高校〔再編枠〕	1～3年		自宅	18,000	18																																																																																											
			自宅外	23,000																																																																																												
※希望者には12,000円を加算																																																																																																
高校〔緊急枠〕	1～4年	国公立	自宅	18,000	0																																																																																											
			自宅外	23,000																																																																																												
		私立	自宅	30,000																																																																																												
			自宅外	35,000																																																																																												
専修〔高等課程〕	1～3年	国公立	自宅	18,000	2																																																																																											
			自宅外	23,000																																																																																												
		私立	自宅	30,000																																																																																												
			自宅外	35,000																																																																																												
専修〔専門課程〕	1～3年		44,000	32																																																																																												
点検・評価	<p>【成果】</p> <p>平成24年度に新規に育英資金の貸与を希望する生徒等に対しては、所得等が基準内の者全てに対し、貸与を行いました。</p> <p>【今後の方向性】</p> <p>今後とも、学ぶ意欲のある生徒等が経済的な面で心配することなく、安心して学べる環境づくりに努めていく必要があります。</p>																																																																																															

取組	<p>◆再編高等学校の遠距離通学者への支援（2,001千円）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・通学費負担増の激変緩和のため、通学費の一部を助成 （補助金額 通学費のうち月額1万円を超える部分） 再編校2校（志賀高等学校、能登高等学校） 67人</li> </ul>
点検・評価	<p>【成果】</p> <p>高等学校再編整備に伴い、遠距離通学となる高等学校の通学者に対し、通学費の一部を助成することにより、通学費負担増の激変緩和に努めました。</p> <p>【課題・今後の方向性】</p> <p>再編後一定の期間が経過しており、激変緩和という目的が達成されたことから、平成25年度で事業を終了します（事業期間：H21～H25の5年間）。</p>

取組	<p>◆特別支援学校への就学援助（187,269千円）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・保護者の経済的負担を軽減するため、経費の一部を助成 特別支援教育就学奨励費負担金・補助金 学校給食費、交通費、修学旅行費、学用品等購入費など 要保護児童生徒援助費補助金 給食費、医療費（中耳炎、う歯の治療費等）</li> </ul>
点検・評価	<p>【成果】</p> <p>特別支援学校等へ就学する児童又は生徒の保護者等の経済的負担を軽減するため、その負担能力に応じ、就学に必要な経費の一部を助成することによって、特別支援教育の普及奨励を図りました。</p> <p>【今後の方向性】</p> <p>今後とも、特別支援学校等への就学の特殊事情にかんがみ、障害のある児童生徒の保護者等の経済的負担を軽減するために必要な支援を行う必要があると考えています。</p>

#### （４）高等学校の特色ある学校づくり

取組	<p>◆魅力ある学校づくりの推進（5,420千円）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・テーマに応じた教育活動等に取り組む県立学校を支援</li> </ul>
点検・評価	<p>【成果】</p> <p>「石川の教育振興基本計画」を具現化し、活力あふれる学校づくりを推進するため、各学校での工夫を凝らした教育活動を支援し、学校の活性化につなげる事業であり、平成24年度は特別支援学校を含む県立学校6校を指定しました。</p> <p>11月に開催した「魅力ある学校づくり実践事例発表大会」では、参加した約970名の教員・生徒・保護者等に対して、学力向上、キャリア教育、道徳教育、環境教育等の優れた取組を紹介し、各校の成果の普及・啓発を図りました。</p> <p>【今後の方向性】</p> <p>魅力ある学校づくりは、各学校の特色や地域性などを活かす形で各学校ごとに取り組まれてきており、今後は、各学校がこれまでの成果を活かしながら自主的な活動として取り組むこととしています。</p> <p>今後は、職業に関する専門教育を行う高校及び特別支援学校を対象に、先進的な取組を支援することを目的とした「未来の職業人プロジェクト」を行っていきます。</p>

取組	<p>◆いしかわニュースーパーハイスクールの推進（5,995千円）〔再掲〕</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・目指す生徒像 実践的な英語力を持ち、将来、国際社会でも活躍できる生徒 高い「志」を持ち、その実現に向けて挑戦する生徒</li> <li>・概要 小 松：人文科学コース（普通科1学級、2年次～）の開設準備（学校設定科目、海外研修、関東ヒューマンセミナー、ダントツ講座） 金沢泉丘：文理－人文系、理文－自然系（普通科全学級、2年次～）の開設準備（人文系における数学、自然系における国語の強化、英語文献購読などの指導法の研究） 七 尾：文系フロンティアコース（普通科1学級、1年次～）を開設 学校設定科目「論述錬磨」、「スピークアウト」の開講、語学キャンプ、日本の文化を学ぶ活動、海外研修事前調査の実施 金沢二水：人文科学及び自然科学コース（普通科各1学級、2年次～）の開設準備（学校設定科目、総合的な学習（リアルサイエンス、グローバルソリューション）、サイエンスツアーなど） 金沢桜丘：人文科学及び自然科学コース（普通科各1学級、2年次～）の開設準備（学校設定科目、総合的な学習（アクティブブレイン）、首都圏研修、海外研修など）</li> </ul>
点検・評価	<p>【成果】</p> <p>1年次よりコースを開設した七尾高校では、学校設定科目「スピークアウト」の授業を開講し、生徒はグループ単位で与えられたテーマについて調べ、英語でスピーチ・プレゼンテーション・討論を行っています。</p> <p>また、2泊3日の語学キャンプでは、ネイティブ講師を招き集中的に英語を使う経験を通して、「聞く・話す」のスキルアップに取り組みました。</p> <p>年度末にスピーチコンテストを開催し、その成果を他校や地域に発表しています。他校の教員からは「スキルの向上だけでなく内容に説得力があり、取組の成果が現れている」などの感想が寄せられました。</p> <p>他の4校については、「人文科学課題研究」や「知の探究」などの新たな学校設定科目の開設などを行うため、先進校の視察、独自教材の開発・研究、シラバスの作成に取り組みました。また、首都圏などの大学・企業等で行う研修やイギリス、シンガポールなどの海外研修の実施に向け、事前調査を行い、具体的な研修プログラムを作成しました。</p> <p>【今後の方向性】</p> <p>今後は、これらの各校の取組が効果的に推進されるよう指導・助言するとともに、各校が互いに交流し切磋琢磨できる環境の整備に努めます。</p>
取組	<p>◆七尾東雲高等学校演劇科における特別授業の実施（3,966千円）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・無名塾の俳優や第一線で活躍する演出家等による講義や実技指導の実施</li> </ul>
点検・評価	<p>【成果】</p> <p>無名塾及び劇団キンダースペースの俳優による特別授業を、計6回実施しました。内容は、演劇に対する心構えや演技の基礎から自己表現、芝居の創作方法まで、各学年に応じたものとなっており、より実践的な演劇の表現力が養われていると考えています。</p> <p>【課題・今後の方向性】</p> <p>各学年の経験の差が大きいことから、学年に応じた指導を行い、実践的な演劇の表現力を養うため、少人数（8～10名）単位でのグループレッスンを継続して実施していきます。</p>

## 5 学校、家庭、地域が連携・協力した、社会全体による教育力の向上

すべての教育の出発点である家庭や子どもたちの活動の場である地域が学校と連携し、様々な形で教育活動に協力し合うことを通して、相互理解と信頼を深め、互いに教育力を高め合い、社会全体で子どもたちを健やかに育てることをめざす。

取組	<p>◆「いしかわ教育の日」の啓発推進（1,300千円）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教育の日記念大会の開催 記念式典（いしかわ教育功労者表彰等）、記念講演等</li> <li>・各教育事務所管内でのタウンミーティングの開催（県内4カ所） 実践事例発表、講演会等を実施</li> <li>・いしかわ教育ウィーク中の関連事業の実施 県・市町での取組135事業、学校での取組395校</li> </ul>
点検・評価	<p>【成果】</p> <p>11月1日の「いしかわ教育の日」に記念大会を開催するとともに、「いしかわ教育ウィーク（11月1日～7日）」の期間中には、県と19市町で、教育関連の講演会や展示会など135事業を実施しました。</p> <p>【今後の方向性】</p> <p>全ての公立学校に加え、多数の私立学校においても、公開授業、学校公開、意見交換などの取組が実施されており、今後とも県民の教育に対する関心と理解が深まるよう引き続き取組を進めていきたいと考えています。</p>
取組	<p>◆家庭教育の充実（16,016千円）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・家庭教育電話相談の充実</li> <li>・家庭教育カウンセリングの実施</li> <li>・家庭教育テレビ番組の放映</li> </ul>
点検・評価	<p>【成果】</p> <p>保護者等に対し、家庭教育への関心・意識を高めるために、テレビ番組を通じて、家庭教育の向上に関する情報を提供しました。</p> <p>また、家庭教育の悩みや問題に対する電話相談を実施し、372件の相談があり、このうち4名が専門家によるカウンセリングを受診しました。</p> <p>【課題・今後の方向性】</p> <p>できるだけ多くの県民に視聴していただくよう広く周知し、内容の充実を図る必要があると考えています。</p> <p>今後とも子育て家庭を支える取組を通して、子どもの誕生から自立までの切れ目のない支援が重要であると考えています。</p>



取組	<p>◆放課後子ども教室の設置支援（6,757千円）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・放課後や週末等に小学校の余裕教室等を活用し、地域の人々の参画を得て、学習やスポーツ・文化活動などを実施する市町の取組を支援</li> <li>推進委員会の設置（県）</li> <li>放課後対策の総合的な在り方の検討 等</li> <li>研修会の開催（2回）（県）</li> <li>成果報告書の作成（県）</li> <li>実施市町：9市町（57箇所）</li> <li>子ども教室の運営計画の策定、運営方法の検討</li> <li>地域の協力者の確保やコーディネーターの配置 等</li> </ul>
点検・評価	<p>【成果】</p> <p>市町の取組を支援することにより、放課後や週末等の子どもたちの安全・安心な居場所を確保しました。また、地域住民と学習やスポーツ・文化活動などを行う放課後子ども教室が、県内9市町（中核市である金沢市を除く）において57箇所設置されています。</p> <p>【今後の方向性】</p> <p>今後とも、子どもたちを心豊かで健やかに育むため、放課後児童クラブ等と連携しながら、安全・安心な居場所づくりを支援していきたいと考えています。</p>
取組	<p>◆地域ぐるみで学校運営を支援するボランティア本部の設置支援（1,577千円）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地域住民のボランティアによる学校運営への支援</li> <li>成果報告会の開催（1回）（県）</li> <li>成果報告書の作成（県）</li> <li>実施市町：8市町（24中学校・56小学校・1特別支援学校）</li> </ul>
点検・評価	<p>【成果】</p> <p>学校の教育活動や環境整備への支援を行うため、地域のボランティアの方々を派遣する「学校支援ボランティア本部」が、8市町20箇所（中核市である金沢市を除く）に設置されました。3,366人のボランティアが登録されており、地域住民の学校支援ボランティアに対する関心が高まっているものと考えています。</p> <p>【今後の方向性】</p> <p>引き続き「学校支援ボランティア本部」の設置を支援し、地域ぐるみで子どもを育てる体制を整えていきたいと考えています。</p>
取組	<p>◆心の教育の推進（7,232千円）〔再掲〕</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・心の教育推進大会の開催（参加者数320人）</li> <li>・グッドマナーキャンペーンの展開（参加協力者数89,176人）</li> <li>・「親子の手紙」の募集（応募数23,774点）</li> <li>・子どもの生活リズム向上の推進</li> <li>達成者数 「げんきいっぱいカード」（幼児用）7,344人</li> <li>「げんきあっぷカード」（小学生）16,829人</li> <li>・高校生ボランティアリーダーの養成 48人 など</li> </ul>

点 検 ・ 評 価	<p><b>【成果】</b></p> <p>豊かな人間性を育む心の教育の充実に向けて、様々な事業を実施しました。グッドマナーキャンペーンの参加協力者数、「親子の手紙」の応募数及び子どもの生活リズム向上の推進における幼児、小学生の達成者数が過去最多となりました。</p> <p><b>【今後の方向性】</b></p> <p>グッドマナーキャンペーンの参加協力者数などが過去最多となるなど、心の教育への県民の関心が高まっており、今後とも継続した取り組みを進めていく必要があると考えています。</p>
-----------------------	---

取 組	<p><b>◆いしかわ学びの指針 12 か条の推進 (10,451 千円) [再掲]</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・いしかわ学びの指針 12 か条推進校の指定 市町の中核となって学力向上に取り組む学校の指定 効果的な評価・検証方法の紹介など</li> <li>・「学力向上プログラム」の推進 推進チームの派遣 (19 市町) など</li> <li>・読書活動の推進 いしかわ学校読書の日の制定 (毎月 23 日) 読書活動推進モデル校の指定 (小中 19 校)</li> <li>・家庭や地域との連携の推進 保護者向け啓発資料の作成、モデル地域の指定 (5 市町) など</li> </ul>
--------	--

点 検 ・ 評 価	<p><b>【成果】</b></p> <p>活用力の向上など、「いしかわ学びの指針 12 か条」の推進に向け、地域の中核となる推進校(30校)を県内全市町において指定し、指針を踏まえた授業実践等を進めました。その結果、各市町の課題の克服に向けた取組が積極的に推進されました。</p> <p>学力向上プログラム推進チームの金沢大学教員を推進校に派遣し、専門的な知見に基づく指導・助言を行うとともに、学力向上を図るための指導法等について共通理解を図る学力向上フォーラムを開催しました。また、市町教育委員会からの要請に基づき、児童生徒一人一人の学力の定着状況などを検証するための評価問題の作成及び配布を行いました。</p> <p>県内小中学校 22 校を読書活動推進モデル校として指定し、各学校の取組を相互に情報交換するとともに、実践事例集を作成し、県内小中学校に配付しました。</p> <p>さらに、家庭や地域との連携による学び支援事業でも 5 市町をモデル地域に指定し、フォーラム等を通して、家庭や地域と連携した学習習慣や基本的な生活習慣の定着などの取組について普及を図りました。</p> <p><b>【今後の方向性】</b></p> <p>今後は、指針を基に本県児童生徒の課題である活用力の向上に向け、効果的な指導法の開発・実践を中心に、読書活動の一層の促進や家庭・地域との連携を図りながら、実効性のある取組を推進する必要があると考えています。</p>
-----------------------	--

取組	<p>◆□学校読書ボランティア活動の推進（609 千円）〔再掲〕</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ ボランティア養成講座の実施など</li> <li>学校読書ボランティア入門講座</li> <li>県内 3 会場（加賀、金沢、能登）各 2 回 272 名</li> <li>・ 初心者を対象とした手引き書の作成・配付 4,000 部</li> </ul>
点検・評価	<p>【成果】</p> <p>入門講座は、学校読書ボランティアに興味がある方などを対象に、学校図書館の役割や読み聞かせのポイント、絵本の選び方などについて講義を行い、272 人が受講しました。</p> <p>【今後の方向性】</p> <p>今後とも、学校における読書活動が活性化されるよう、引き続き取組を進めていきたいと考えています。</p>

取組	<p>◆家庭・地域におけるいじめ・不登校等の未然防止対策の推進（1,229 千円）〔再掲〕</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ P T A ・ 公民館等によるいじめ・不登校等の未然防止講座、セミナーの開催など</li> </ul>
点検・評価	<p>【成果】</p> <p>P T A や公民館等 13 団体にモデル事業を委託し、保護者や地域住民を対象とした、いじめ・不登校等の状況や原因への理解を深める参加体験型の講座やセミナーを延べ 34 回開催し、3,586 人が受講しました。</p> <p>【今後の方向性】</p> <p>今後も保護者や地域住民に対する啓発に努めるとともに、平成 25 年度は新たに地域の大人と子どもとの関係づくりを進める通学合宿の実施を支援し、引き続き地域全体で子どもたちを見守る環境づくりを進め、いじめ・不登校の未然防止を図りたいと考えています。</p>

取組	<p>◆携帯電話等によるネットトラブルの未然防止対策の推進（1,791千円）〔再掲〕</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・小1～高3の全保護者向け啓発リーフレット作成・配付（7月）150,000部</li> <li>・PTA等が開催する保護者対象の啓発講座への講師派遣</li> <li>・携帯電話利用状況の実態把握のため、公立小中高生を対象にアンケート調査を実施</li> <li>・ネットトラブル対策チームの設置 ネットパトロールの実施 いじめ、誹謗中傷等の書き込みを学校へ情報提供 学校からの相談受付 など</li> </ul>
点検・評価	<p>【成果】</p> <p>携帯電話の有害情報対策として、全小中高等学校・特別支援学校の保護者に「いしかわ子ども総合条例」改正の趣旨や、携帯電話に潜む危険性と安全対策等を記したリーフレットを配付しました。併せて、保護者対象の啓発講座へ講師を派遣し、県内14校において900人が受講しました。</p> <p>また、平成24年12月に実施した「携帯電話等に関するアンケート調査」において</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・小・中学生の所持率は全国に比べ低い傾向がある</li> <li>・「いしかわ子ども総合条例」が改正されたこともあり、中学2年までに所持する者は平成22年以前に比べ少なくなり、フィルタリング率は平成22年に比べ高くなったなどの結果が得られたことで、これまでの取組により一定の成果があったと考えています。</li> </ul> <p>【今後の方向性】</p> <p>上記の調査において、</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・高校1年生においてスマートフォンが急速に普及しており、携帯電話利用者に比べ、フィルタリング設定率が低く、使用時間が長い</li> <li>・親子のルールづくりについて親子間の意識の差異がある</li> </ul> <p>などの課題も見られました。</p> <p>このため、今後は、スマートフォンが急速に普及している現況を踏まえ、ネット利用に関わる危険性などについても周知することや、より一層PTAと連携して、いしかわ子ども総合条例の趣旨についての周知・啓発活動及び情報モラル教育の推進が必要であると考えています。</p>

### 施策指標の達成状況

指標名	H22 基準値	H24 実績値 (A)	H27 目標値 (B)	達成率 (A/B×100)
親子の架け橋一筆啓上「親子の手紙」応募数	19,631 点	23,774 点	28,000 点	84.9%
「げんきいっぱいカード」目標達成者数	6,375 人	7,344 人	7,500 人	97.9%

※H22基準値は、「石川の教育振興基本計画」の数値目標項目の策定時の値です。

H27目標値は、「石川の教育振興基本計画」の数値目標項目の目標値です。

## 6 学びの気運に満ちた生涯学習社会づくり

県民一人一人が、自分らしい学びを通し、新しい自分を見付けるとともに、様々な出会いや交流をすることで、自らの成長と自己実現を図り、その成長を生かすことのできる社会づくりをめざす。

取組	<p>◆<b>県民大学校の充実</b>（37,336千円）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・県民大学校の運営、充実            専門講座 31講座、教養講座 1,019講座            大学院 4講座（「石川の博士」養成）            うち、県民大学校能登校 27講座（能登文化講座、陶芸教室など）</li> </ul>
点検・評価	<p>【成果】            県民大学校では、多様化する県民の学習ニーズに応えるため、平成24年度は1,054の講座を開設し、開校以来の修了生は延べ14,283人に達しました。</p> <p>【今後の方向性】            今後は、講座内容の充実に加えて、出前講座の実施やインターネットによる講座内容の配信など、学びの機会を大人から子どもまで広く提供していきたいと考えています。</p>
取組	<p>◆<b>生涯学習情報システムによる情報提供の推進</b>（826千円）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・インターネットによる生涯学習情報提供システム（あいあいネット）の利用促進            対応情報 5分野 15,127件</li> </ul>
点検・評価	<p>【成果】            県民が生涯学習に必要な資料・情報を効率的に得られるよう、講座・講師・視聴覚教材情報をはじめとした県や市町等の生涯学習情報をホームページで提供しており、平成24年度のアクセス件数は、23年度と比較して2,862件増加の41,024件でした。</p> <p>【今後の方向性】            今後は、視聴覚教材や県民大学校講座の一部を配信するなど、利便性の向上を図ることと、引き続き利用促進に努めていきます。</p>
取組	<p>◆<b>図書館マルチ検索・予約システムの運営</b>（11,088千円）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・インターネットによる横断検索システムの運用            県立図書館、大学図書館、市町立図書館と接続            検索可能冊数 約734万冊、アクセス件数 162,418件</li> <li>・国立国会図書館との図書検索ネットワークの運用            検索可能冊数 約4,400万冊</li> </ul>
点検・評価	<p>【成果】            インターネットを利用した予約システムや、県内41図書館の蔵書を一括して検索できる横断検索システムの運営、最寄りの図書館で図書資料の受取・返却ができる相互貸借などのサービスを提供しました。</p> <p>【今後の方向性】            今後とも県民の読書活動が推進されるよう引き続き取組を進めていきたいと考えています。</p>

施策指標の達成状況

指標名	H22 基準値	H24 実績値 (A)	H27 目標値 (B)	達成率 (A/B×100)
石川県民大学校修了者数(累計)	12,558 人 (H21)	14,283 人	15,000 人	95.2%
県立図書館における貸出冊数	153,224 冊 (H21)	138,309 冊	190,000 冊	72.8%
「あいあいネット」(県生涯学習情報提供システム)年間アクセス件数	44,599 件 (H21)	41,024 件	50,000 件	82.0%
県内公共図書館蔵書情報横断検索システム年間アクセス件数	142,093 件 (H21)	162,418 件	242,000 件	67.1%

※H22 基準値は、「石川の教育振興基本計画」の数値目標項目の策定時の値です。  
H27 目標値は、「石川の教育振興基本計画」の数値目標項目の目標値です。

## 7 文化財の保存・活用

本県の個性豊かな歴史と文化を物語る文化財を大切に保存するとともに、積極的に公開・活用を図り、さらに次世代に継承させていくため、世界遺産登録に向けた取り組み、文化財の掘り起こしや調査研究を進めるほか、文化財を支える人材の養成・確保など保存伝承基盤の整備を図る。また、埋蔵文化財の発掘調査を促進し、調査成果の公開と活用を図る。

取組	<p>◆金沢城石川門の保存修理（89,860千円）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・附属左方太鼓塀の解体修理、表門の部分修理など</li> </ul>
点検・評価	<p>【成果】</p> <p>金沢城石川門の保存を図るため、附属左方太鼓塀の解体修理のほか、表門の柱の根継ぎや、屋根の修理などを実施しました。</p> <p>【今後の方向性】</p> <p>引き続き、平成25年度完成を目指して計画的に取り組んでいきます。</p>

取組	<p>◆金沢城の調査研究（17,332千円）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・総合的な調査研究の推進 <ul style="list-style-type: none"> <li>城内の庭園遺構の確認調査</li> <li>城内の石垣の特質、保存状況の調査</li> <li>金沢城関連城郭等の調査研究に係る連絡会の開催</li> <li>「金沢城編年史料（仮称）」の編纂など</li> </ul> </li> <li>・基礎的調査の充実・発展 <ul style="list-style-type: none"> <li>金沢城下町の史料及び絵図等の調査</li> <li>本丸周辺の埋蔵文化財調査</li> <li>本丸・玉泉院丸等城門及び城内建造物等の調査など</li> </ul> </li> <li>・資料収集デジタル化 など</li> </ul>
点検・評価	<p>【成果】</p> <p>金沢城調査研究の第2期初年度として、これまでの基礎的調査に加え、新たに学際的な総合研究を開始し、絵図文献・建築・考古等様々な視点での庭園の確認調査や、地盤工学等の専門家を迎えての城内石垣の現況調査などを実施しました。</p> <p>【今後の方向性】</p> <p>引き続き、金沢城の学術的な価値と特徴をより深く掘り下げるとともに、遺構の確実な保存と活用を図り、将来にわたって長く継承していくための調査などに取り組むこととしています。</p>

取組	<p>◆世界遺産登録に向けた取り組み（7,888千円）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・文化遺産学術調査委員会の開催</li> <li>・学術的な考察を深めるためのテーマ別研究</li> <li>・史跡指定に向けた戸室石切丁場の総合調査</li> <li>・未指定文化財の調査に対する支援</li> <li>・「石川県に世界遺産を」キャンペーン事業への支援</li> </ul>
点検・評価	<p>【成果】</p> <p>世界遺産登録への取り組みの中で、金沢市が実施する未指定文化財の調査を支援したほか、「城下町金沢」の構成資産に関する調査研究事業などを実施しました。</p> <p>【今後の方向性】</p> <p>引き続き、世界遺産の登録に向けてこれらの取り組みを進めることとしています。</p>

取組	<p>◆ふるさと文化財調査の促進（1,446千円）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・市町の文化財建造物に関する調査 <ul style="list-style-type: none"> <li>妙成寺伽藍調査</li> <li>角海家住宅文書調査</li> <li>七ヶ用水測量等調査</li> </ul> </li> <li>・文化的景観保護に関する調査 <ul style="list-style-type: none"> <li>輪島市文化的景観調査</li> </ul> </li> </ul>
点検・評価	<p>【成果】</p> <p>文化財としての保存を図るため、引き続き輪島市の文化的景観保護に関する調査への支援を実施したほか、市町が実施する文化財建造物の歴史的・学術的価値の解明に向けた調査を支援しました。</p> <p>【今後の方向性】</p> <p>引き続き、本県の歴史文化を語るふるさと文化財の調査に取り組んでいきます。</p>

取組	<p>◆有形文化財の保存（22,381千円）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・那谷寺書院ほか2棟の屋根葺替</li> <li>・大乘寺仏殿の屋根葺替</li> <li>・上時国家住宅の屋根葺替</li> <li>・雄谷家住宅の屋根葺替</li> <li>・伝統的建造物群保存地区保存 など</li> </ul>
点検・評価	<p>【成果】</p> <p>有形文化財の保存を図るため、新たに着手した那谷寺書院など3件を含む9件の修理等を実施し、そのうち大乘寺仏殿など3件の事業が完了しました。</p> <p>【今後の方向性】</p> <p>今後とも、本県の歴史・文化を反映した有形文化財の保存に、計画的に取り組んでいきます。</p>



取組	<p>◆史跡名勝天然記念物の保存（9,490千円）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・七尾城跡の公有地化</li> <li>・御経塚遺跡の保存修理</li> <li>・寺家遺跡保存管理計画策定</li> <li>・吉崎・次場遺跡の復元建物の葺替</li> <li>・大聖寺城跡等の調査</li> <li>・湯屋窯跡の調査 など</li> </ul>
点検・評価	<p>【成果】</p> <p>史跡名勝天然記念物の保存を図るため、新たに着手した大聖寺城跡など6件を含む9件の調査や修理等を実施し、そのうち御経塚遺跡など4件の事業が完了しました。</p> <p>【今後の方向性】</p> <p>今後とも、本県の歴史・文化を反映した史跡名勝天然記念物の保存に、計画的に取り組んでいきます。</p>

取組	<p>◆ふるさと文化財の整備・活用（28,943千円）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・金沢湯涌江戸村の整備</li> <li>・加賀藩主前田家墓所の環境整備</li> <li>・真脇遺跡の史跡公園整備</li> <li>・九谷磁器窯跡の整備</li> <li>・鳥越城跡附二曲城跡の整備など</li> </ul>
点検・評価	<p>【成果】</p> <p>地域の活性化を図るため、真脇遺跡など8件のふるさとの歴史的・文化的シンボルとなっている文化財の整備等を実施しました。</p> <p>【今後の方向性】</p> <p>今後とも、ふるさとの歴史を物語る文化財の整備・活用に計画的に取り組んでいきます。</p>

取組	<p>◆埋蔵文化財発掘調査の促進と公開・活用（328,913千円）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・緊急発掘調査の実施 <ul style="list-style-type: none"> <li>県事業 河北縦断道路等事業</li> <li>受託事業 国土交通省等の事業</li> </ul> </li> <li>市町への助成 白山市ほか5市町</li> <li>・古代ふれあい体験イベント等の開催</li> </ul>
点検・評価	<p>【成果】</p> <p>河北縦断道路等の緊急発掘調査要望に対応したほか、市町が行う地域にとって重要な遺跡の保護に向けた発掘調査に助成することにより、埋蔵文化財の適切な保護を図りました。</p> <p>また、埋蔵文化財センターを中心とした古代体験学習や公開講座の開催等により埋蔵文化財の公開・活用を行いました。</p> <p>【今後の方向性】</p> <p>今後とも、ふるさとの埋蔵文化財に対する理解と関心を深めていくため、効率的な発掘調査や各種普及啓発事業を進めていくこととしています。</p>

施策指標の達成状況

指標名	H22 基準値	H24 実績値 (A)	H27 目標値 (B)	達成率 (A/B×100)
埋蔵文化財センター体験学習者数(累計)	124,703 人 (H21)	176,977 人	207,000 人	85.5%

※ H 2 2 基準値は、「石川の教育振興基本計画」の数値目標項目の策定時の値です。

H 2 7 目標値は、「石川の教育振興基本計画」の数値目標項目の目標値です。

## 8 ライフステージに応じたスポーツ活動の充実

ライフステージに応じたスポーツ活動の充実をめざして、県民のだれもが「いつでも」「どこでも」「いつまでも」スポーツに親しむことにより、活力にあふれた人づくりの取組を推進する。

### (1) 県民のスポーツライフの充実

取組	<p>◆<b>県民総スポーツ運動の推進</b>（6,332 千円）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・いしかわ 302 スポーツ運動の実施</li> <li>・スポーツ推進審議会を開催</li> <li>・地域スポーツ指導者養成講習会の開催</li> </ul>
点検・評価	<p>【<b>成果</b>】</p> <p>県民に日常生活の中で、継続的に運動やスポーツをすることを習慣づけるために、一日 30 分以上の運動を週 2 回以上継続して行う「いしかわ 302 スポーツ運動」を実施し、平成 24 年度は、規定日数を達成した 325 名に記念のピンバッジを交付しました。</p> <p>また、地域住民が気軽にスポーツを楽しむことのできる環境づくりを推進するため、地域スポーツ指導者養成講習会を開催し、平成 15 年度の事業実施から、これまでに 198 名が修了いたしました。</p> <p>【<b>今後の方向性</b>】</p> <p>今後も県民それぞれのライフステージに応じたスポーツ機会の創出を図ります。</p>
取組	<p>◆<b>広域スポーツ支援センター事業の推進</b>（2,435 千円）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・総合型地域スポーツクラブの育成支援             <ul style="list-style-type: none"> <li>クラブマネジャー養成講習会 受講者：14 名</li> <li>クラブマネジャースキルアップ講習会 受講者：42 名 など</li> </ul> </li> <li>・インターネットを通じたスポーツ情報の提供             <ul style="list-style-type: none"> <li>アクセス数：53,085 件</li> </ul> </li> </ul>
点検・評価	<p>【<b>成果</b>】</p> <p>総合型地域スポーツクラブの育成・支援を目的とした広域スポーツ支援センターにおいて、クラブマネジャー養成講習会を実施するとともに、クラブ運営に係るマネジメント能力の向上のために、クラブマネジャースキルアップ講習会を開催しました。</p> <p>また、県民が必要なスポーツ情報や総合型地域スポーツクラブの情報を手軽に入手できるよう、スポーツ情報ネットワーク「スポナビいしかわ」を運用しており、平成 24 年度のアクセス数は平成 23 年度と比べ 9,733 件増の 53,085 件となりました。</p> <p>【<b>今後の方向性</b>】</p> <p>平成 24 年度は、8 市 3 町に総合型地域スポーツクラブが創設されていますが、県内市町全てに創設されるよう、引き続き支援する必要があると考えています。</p>

取組	<p>◆県民スポーツ・レクリエーション祭の開催（5,075千円）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・中心会期 5月～6月</li> <li>・場 所 県内各市町</li> <li>・内 容 43種目団体が運営する種目別大会 市町が開催するニュースポーツ体験広場 総合型地域スポーツクラブによる協賛大会</li> </ul>
点検・評価	<p>【成果】</p> <p>県民の体力の向上と健康増進に向け、それぞれがライフステージに応じてスポーツに親しむことを推奨しており、その実践の場として、県下全域において、年間を通じて様々なスポーツ種目が体験できるよう県民スポーツ・レクリエーション祭を開催しました。</p> <p>【今後の方向性】</p> <p>平成24年度は、約1万5千人が参加しましたが、今後もより多くの方が参加できるよう、開催方法や時期などについて、関係団体と協議を進めていきたいと考えています。</p>

## （2）より高いレベルの競技者育成をめざした取組の充実

取組	<p>◆選手強化事業の推進（215,100千円）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・国体選手強化 岐阜国体に向けた重点強化 26競技 55種別 強化合宿、県外遠征、若手指導者養成等への助成 一貫指導ジュニア育成の推進</li> <li>・中学生選手強化</li> <li>・科学トレーニングの実施</li> <li>・高校生選手強化 高等学校特別強化事業</li> </ul>
点検・評価	<p>【成果】</p> <p>国体における天皇杯順位が、平成24年度は26位となり、本県を代表する選手が各種大会で上位入賞するとともに、オリンピックをはじめとする国際大会の日本代表選手に選出されるなど、選手強化に一定の成果があったと考えています。</p> <p>また、平成24年に北信越ブロックで開催された全国高等学校総合体育大会（インターハイ）の本県開催4競技において上位入賞を果たすため、23年度に引き続き、全国強豪校の招待や全国強豪校への遠征、著名コーチの招聘等を実施するなど、高等学校運動部活動の競技力向上を図りました。</p> <p>【今後の方向性】</p> <p>引き続き競技団体の競技力強化を図るとともに、小学生から高校生まで指導する一貫指導ジュニア育成事業などを通して、少年選手層の一層の強化に取り組んでいきたいと考えています。</p>

取組	<p>◆運動部地域指導者の派遣（2, 668 千円）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地域指導者の中・高等学校運動部への派遣 市町立中学校 29 名 県立学校 19 名</li> </ul>
点検・評価	<p>【成果】</p> <p>中・高等学校の運動部活動の指導者不足や技術指導のニーズの高度化・専門化に対応するため、競技の専門的指導技術や知識を持つ地域の指導者を中・高等学校に派遣したことにより、運動部活動の活性化が図られ、生徒の技術や意欲の向上などの成果がみられました。</p> <p>【今後の方向性】</p> <p>今後の課題として、運動部活動の顧問と地域スポーツ指導者のお互いの資質向上を図るために、計画的な連絡会や研修会等の実施方法について検討するとともに、運動部活動の充実のため、引き続き地域の指導者の派遣を進めていく必要があると考えています。</p>

取組	<p>◆全国高等学校総合体育大会（インターハイ）の開催（72, 800 千円）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・会 期 平成 24 年 7 月 28 日～8 月 20 日</li> <li>・競技 バスケットボール（金沢市） ヨット（七尾市） カヌー（小松市） ウエイトリフティング（珠洲市）</li> </ul>
点検・評価	<p>【成果】</p> <p>高校生最大のスポーツの祭典であるインターハイの開催にあたり、県実行委員会では平成 23 年度より関係競技団体や開催市実行委員会と連携を図り、万全の大会準備を整えてきました。</p> <p>大会中に県外からお越しいただいた選手、監督、役員、応援の方々からは、開催市の大会運営や地元の皆さんのおもてなしにご好評をいただくなど、多くの皆さんに満足いただける大会運営ができました。また、本県開催の 4 競技の観客数は 10 万人を超え、ヨット競技の女子 F J 級デュエット競技では、県勢として初優勝する活躍がありました。</p>

取組	<p>◆いしかわっ子駅伝交流大会の開催（3, 100 千円）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・開 催 日 平成 24 年 11 月 3 日</li> <li>・場 所 西部緑地公園陸上競技場周辺特設周回コース</li> <li>・参 加 者 男子 106 チーム、女子 98 チーム（小学校 5・6 年生）</li> </ul>
点検・評価	<p>【成果】</p> <p>いしかわっ子駅伝交流大会は、市町教委を通じ、学校に対して大会への出場を働きかけてきたことにより、年々出場者が増加し、平成 24 年度は、23 年度を上回る 1, 317 人の出場がありました。</p> <p>【今後の方向性】</p> <p>今後も児童の心身の健全な育成並びに体力の向上を図る一環として、駅伝競走の取組を進めていく必要があると考えています。</p>

取組	<p>◆全国大会等への派遣費助成（89,010 千円）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・国民体育大会等への派遣助成 <ul style="list-style-type: none"> <li>国民体育大会（秋季：岐阜県ほか、冬季：秋田県ほか） 523 人派遣</li> <li>北信越国民体育大会（福井県ほか） 732 人派遣</li> <li>全国高等学校体育大会等（北信越ブロックほか） 763 人派遣</li> <li>全国高等学校体育大会北信越大会（新潟県ほか） 1,176 人派遣</li> <li>全国中学校体育大会等（関東地区） 268 人派遣</li> <li>全国中学校体育大会北信越大会（長野県） 876 人派遣</li> </ul> </li> </ul>
点検・評価	<p>【成果】</p> <p>県民にスポーツを普及させ、スポーツ精神を高揚して健康増進と体力向上を図ることを目的として、国民体育大会等に本県選手団を派遣する経費を助成しました。</p> <p>また、中学校・高等学校の教育活動の一環として、技能の向上とスポーツ精神の高揚を図り、生徒相互の親睦を深めるために、中学校・高等学校体育大会等の全国大会等に本県代表選手を派遣する経費を助成しました。</p> <p>【今後の方向性】</p> <p>今後も本県のスポーツ振興のため、継続した取組を進めていく必要があると考えています。</p>

## （２）スポーツ施設の整備・充実

取組	<p>◆県立体育・スポーツ施設の管理運営（297,555 千円）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・県立体育施設の維持管理 <ul style="list-style-type: none"> <li>いしかわ総合スポーツセンター ほか 9 施設</li> </ul> </li> </ul> <p>◆体育・スポーツ施設のリニューアル等（113,580 千円）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・石川県津幡漕艇競技場の河北潟東部承水路浚渫工事 以下 7 件</li> </ul>
点検・評価	<p>【成果】</p> <p>「競技力の向上」と「生涯スポーツ社会の実現」を目指し、本県スポーツ振興の中核的拠点である「いしかわ総合スポーツセンター」の平成 24 年度の入館者数は、23 年度と比較して約 4 万人増の約 55 万 5 千人の利用がありました。</p> <p>【今後の方向性】</p> <p>県のスポーツ施設については、競技力の向上やスポーツに親しみやすい環境づくりなどを基本として、整備目的に沿ってその役割を果たしていけるよう計画的に改修等を実施するとともに、引き続き多くの方に利用していただけるよう、利便性の向上に努めることが必要であると考えています。</p>

施策指標の達成状況

指標名	H22 基準値	H24 実績値 (A)	H27 目標値 (B)	達成率 (A/B×100)
総合型地域スポーツクラブ創設市町数	8市3町	8市3町	全市町 (10市9町)	57.9%
有資格指導者数	1,529人 (H21)	1,843人	2,000人	92.2%
「スポナビいしかわ」(県スポーツネットワーク)への参加団体の割合	45.6% (57/125団体)	55.1% (70/127団体)	75%	73.5%
「石川県民スポーツ・レクリエーション祭」参加者数(累計)	246,818人	278,084人	350,000人	79.5%
(財)日本障害者スポーツ協会公認初級指導員養成講習会修了者数	399人	428人	500人	85.6%

※H22基準値は、「石川の教育振興基本計画」の数値目標項目の策定時の値です。  
H27目標値は、「石川の教育振興基本計画」の数値目標項目の目標値です。

## 教育委員会会議及び教育委員の主な活動

教育委員会は、学校教育、生涯学習、文化財保護、スポーツ等の教育行政に関する重要事項や基本方針について、教育委員会会議を開催して決定している。

教育委員は、教育委員会会議に出席するほか、教育現場の視察、市町教育委員等との意見交換、教育関係の各種行事への出席等の活動を通じて、広く県民の意向を反映した責任ある教育行政の実現に努めている。

### 1 教育委員会会議

15回開催（開催日及び審議決定事項 46頁）

（	議案	35件	）
（	報告事項	25件	）

### 2 教育委員の主な活動

月 日	内 容
H24.4.2	事務局職員辞令交付式
H24.4.2	新規採用教職員辞令交付式
H24.4.27	いしかわ子ども交流センター視察（金沢市）
H24.5.11	石川縣市町教育委員会連合会定期総会（金沢市）
H24.5.29	学校視察（県立金沢向陽高校、金沢桜丘高校、金沢泉丘高校、金沢二水高校、盲学校）
H24.6.11	永年勤続退職者知事感謝状贈呈式
H24.7.13	学校視察（野々市市立野々市小学校、布水中学校）
H24.7.13	野々市市教育委員との意見交換（野々市市）
H24.7.18 ～19	全国都道府県教育委員会連合会総会（徳島県）
H24.8.6	高校連携事業第1回合同セミナー視察
H24.10.12	石川縣市町教育委員会連合会研究大会（宝達志水町）
H24.10.29 ～30	東海北陸ブロック教育委員会全員協議会（福井県）
H24.11.1	「いしかわ教育の日」記念大会
H24.11.2	学校視察（県立門前高校、穴水高校、輪島市立門前東小学校、穴水町立穴水中学校、穴水小学校、能登町立柳田小学校）
H24.11.4	心の教育推進大会
H24.11.5	永年勤続職員表彰式
H23.11.10	魅力ある学校づくり実践事例発表大会
H24.11.13	学校視察（中能登町立鹿西小学校、鹿島中学校）
H24.11.13	中能登町教育委員との意見交換（中能登町）
H25.1.22	全国都道府県教育委員会連合会総会（東京都）
H25.1.24	学校視察（いしかわ特別支援学校）
H25.1.24	公安委員との意見交換会
H25.2.12	知事との意見交換会
H25.3.29	退職者辞令交付式
H25.3.29	新任校長等辞令交付式



平成24年度教育委員会議開催状況

回（開催日）	審 議 決 定 事 項	
平成24年第6回 (H24. 4. 19)	議案第12号	平成24年度石川県教科用図書選定審議会委員の委嘱（任命）について
	報告第1号	石川版教科書「ふるさと石川」の改訂について
	報告第2号	平成24年度石川県立金沢錦丘中学校及び石川県公立高等学校における入学者選抜結果について
	報告第3号	平成23年度全国高等学校選抜大会の成績について
	報告第4号	教職員の人事異動について
平成24年第7回 (H24. 5. 21)	議案第13号	平成25年度石川県公立高等学校等における入学者選抜方針について
	議案第14号	平成25年度使用教科書の採択方針について
	議案第15号	石川県社会教育委員の委嘱（任命）について
	議案第16号	石川県スポーツ推進審議会委員の委嘱（任命）について
	報告	平成25年度石川県公立学校教員採用候補者選考試験及び石川県公立学校教員（栄養教諭）採用候補者特別選考試験について
平成24年第8回 (H24. 6. 6)	議案第17号	石川県社会教育委員及び石川県立図書館協議会委員の委嘱について
平成24年第9回 (H24. 7. 6)	議案第18号	石川県教育職員免許法令施行細則の一部改正について
	議案第19号	石川県立高等学校の学科等の改編について
	議案第20号	石川県産業教育審議会委員の委嘱（任命）について
	議案第21号	石川県立図書館協議会委員の委嘱（任命）について
	議案第22号	教職員の人事について
	報告第1号	いしかわマスター教員表彰制度について
	報告第2号	平成25年度石川県公立高等学校入学者選抜方法について
	報告第3号	平成24年3月石川県公立高等学校卒業者の進路状況について
	報告第4号	平成24年度基礎学力調査の結果について

回（開催日）	審 議 決 定 事 項
平成24年第10回 (H24. 8. 31)	議案第23号 教育委員会の権限に属する事務の管理及び執行状況の点検及び評価について 議案第24号 平成24年第3回石川県議会定例会提出予定案件について 議案第25号 文化財の県指定に係る石川県文化財保護審議会への諮問について 議案第26号 石川県社会教育委員の委嘱（任命）について ----- 報告第1号 平成24年度全国学力・学習状況調査の結果について 報告第2号 いじめ対策緊急連絡協議会について 報告第3号 平成24年度全国高等学校総合体育大会等における本県選手団の成績について
平成24年第11回 (H24. 9. 14)	議案第27号 平成25年度石川県立学校第1学年入学者の募集定員について 議案第28号 文化財の県指定について
平成24年第12回 (H24. 10. 2)	議案第29号 人事異動について
平成24年第13回 (H24. 10. 9)	議案第29号 石川県立高等学校規則及び石川県立特別支援学校規則の一部改正について 議案第31号 平成24年度石川県優秀教員の決定について ----- 報告第1号 平成25年度石川県公立学校教員採用候補者等の選考結果について 報告第2号 教員志望大学生実力アップセミナーについて 報告第3号 ぎふ清流国体における本県選手団の結果について 報告第4号 平成24年度いしかわマスター教員の決定について ----- その他 委員長選挙
平成24年第14回 (H24. 11. 21)	議案第32号 平成24年第4回石川県議会定例会提出予定案件について 議案第33号 平成25年度教職員人事異動方針について 議案第34号 教職員の人事について
平成24年第15回 (H24. 12. 13)	議案第35号 平成24年第4回石川県議会定例会追加提出予定案件について
平成24年第16回 (H24. 12. 18)	議案第36号 石川県生涯学習審議会委員の委嘱（任命）について ----- 報告第1号 高等学校連携による教育力向上推進事業第2回合同セミナーについて 報告第2号 教職員の人事異動について

回（開催日）	審 議 決 定 事 項	
平成25年第1回 (H25. 1. 15)	議案第1号 議案第2号 議案第3号	石川県文化財保護審議会委員の委嘱（任命）について 教育職員免許状の取上げについて 一般行政職員に係る平成25年4月定期人事異動方針について
平成25年第2回 (H25. 2. 12)	議案第4号  ----- 報告第1号 報告第2号	平成25年第1回石川県議会定例会提出予定案件等について  体罰に関する調査について 平成24年度児童生徒の体力・運動能力調査結果の概要について
平成25年第3回 (H25. 3. 8)	議案第5号 議案第6号 議案第7号  ----- 報告第1号	指導が不適切な教諭等の認定等について 人事異動について 教職員の人事について  第68回国民体育大会冬季大会における本県選手団の成績について
平成25年第4回 (H25. 3. 19)	議案第8号 議案第9号 議案第10号  ----- 報告第1号 報告第2号 報告第3号 報告第4号	石川県教育委員会事務局等組織規則等の一部改正について 人事異動について 教職員の人事について  平成25年度学校教育指導の重点について いしかわ版道徳教材について 平成24年度石川県社会教育委員の会議における協議のまとめについて 人事異動について

## 平成24年度当初予算（教育委員会）の概要

### 1 一般会計

#### (1) 目的別内訳

(単位：千円)

区 分	平成24年度（当初）		平成23年度（当初）		増 減 額 A-B	増 減 率 $\frac{A-B}{B}$
	予算額 A	構成比	予算額 B	構成比		
教 育 総 務 費	3,349,644	3.4%	3,551,811	3.6%	△ 202,167	△ 5.7%
小 中 学 校 費	59,696,658	60.7%	60,048,623	60.9%	△ 351,965	△ 0.6%
高 等 学 校 費	25,191,474	25.6%	25,188,547	25.5%	2,927	0.0%
特 別 支 援 学 校 費	8,035,820	8.2%	7,901,128	8.0%	134,692	1.7%
社 会 教 育 費	1,097,475	1.1%	1,122,317	1.1%	△ 24,842	△ 2.2%
保 健 体 育 費	973,268	1.0%	863,533	0.9%	109,735	12.7%
計	98,344,339	100.0%	98,675,959	100.0%	△ 331,620	△ 0.3%

#### (2) 性質別内訳

(単位：千円)

区 分	平成24年度（当初）		平成23年度（当初）		増 減 額 A-B	増 減 率 $\frac{A-B}{B}$
	予算額 A	構成比	予算額 B	構成比		
職 員 費	90,186,250	91.7%	91,274,361	92.5%	△ 1,088,111	△ 1.2%
投資的経費	3,427,982	3.5%	2,637,153	2.7%	790,829	30.0%
国庫補助 建設事業	475,419	0.5%	322,604	0.3%	152,815	47.4%
一般単 独事業	2,952,563	3.0%	2,314,549	2.4%	638,014	27.6%
一般行政経費	4,730,107	4.8%	4,764,445	4.8%	△ 34,338	△ 0.7%
国庫補助の あるもの	419,128	0.4%	323,900	0.3%	95,228	29.4%
国庫補助の ないもの	4,310,979	4.4%	4,440,545	4.5%	△ 129,566	△ 2.9%
計	98,344,339	100.0%	98,675,959	100.0%	△ 331,620	△ 0.3%

### 2 特別会計

(単位：千円)

区 分	平成24年度（当初）		平成23年度（当初）		増 減 額 A-B	増 減 率 $\frac{A-B}{B}$
	予算額 A	構成比	予算額 B	構成比		
育 英 資 金 費	366,964		358,999		7,965	2.2%